

# 町田市新・産業振興計画

(2014年度～2018年度)

## 取り組み結果報告書

産業振興で



2019年8月

町田市



## ◇目次◇

◇第1章 町田市新・産業振興計画とは……………	1
◇第2章 町田市新・産業振興計画の取り組み結果……………	5
推進事業の取り組み結果	
基本施策1 「活気ある商業空間をつくる」……………	7
基本施策2 「ものづくり産業を活性化する」……………	17
基本施策3 「農を支える環境をつくる」……………	22
基本施策4 「まちの魅力を高め、発信する」……………	35
基本施策5 「事業者が活発に活動できる環境をつくる」……………	44
基本施策6 「各分野の連携を促進する」……………	62
推進事業取り組み結果一覧……………	65

## 第1章 町田市新・産業振興計画とは

---

町田市新・産業振興計画は、町田市の産業振興の基本となる「町田市産業振興基本条例」に基づき、2014年度から5カ年度の産業振興に係る具体的な取り組みを示したものです。

### ※町田市産業振興基本条例

町田市の産業振興の5つの基本方針と、市・経済関係団体・事業者・市民の責務が定められています。

#### <5つの基本方針>

- ◇ 産業間及び業種間の連携による産業の強化及び育成を図る。
- ◇ 生活者にとって価値の高い産業の強化及び育成を図る。
- ◇ 事業者の創意工夫及び自立的な発展を促進する。
- ◇ 地域資源の積極的な活用を図る。
- ◇ 地域の人材を活用した新たなネットワークを形成する。

#### (1) 上位計画

まちだ未来づくりプラン「まちづくり基本目標Ⅲ 賑わいのあるまちをつくる」

#### (2) 町田市新・産業振興計画における基本目標及び基本施策等

町田市の産業振興に係る基本目標として、「市民の雇用の拡大を目指す」を設定しています。

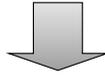
この基本目標の下、「活気ある商業空間をつくる」「ものづくり産業を活性化する」「農を支える環境をつくる」「まちの魅力を高め、発信する」「事業者が活発に活動できる環境をつくる」と「各分野の連携を促進する」の6つの基本施策を設定し、この6つの基本施策の下に52の推進事業を設定しています。

#### (3) 計画期間

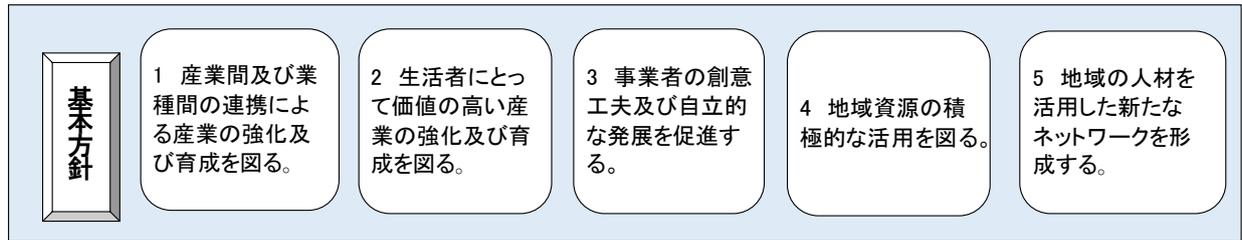
計画期間は、2014年度～2018年度の5カ年です。ただし、社会経済状況の変化により、必要となった事業については別途取り組んでいます。

(4) 町田市新・産業振興計画の枠組み

まちだ未来づくりプラン  
まちづくり基本目標Ⅲ「賑わいのあるまちをつくる」

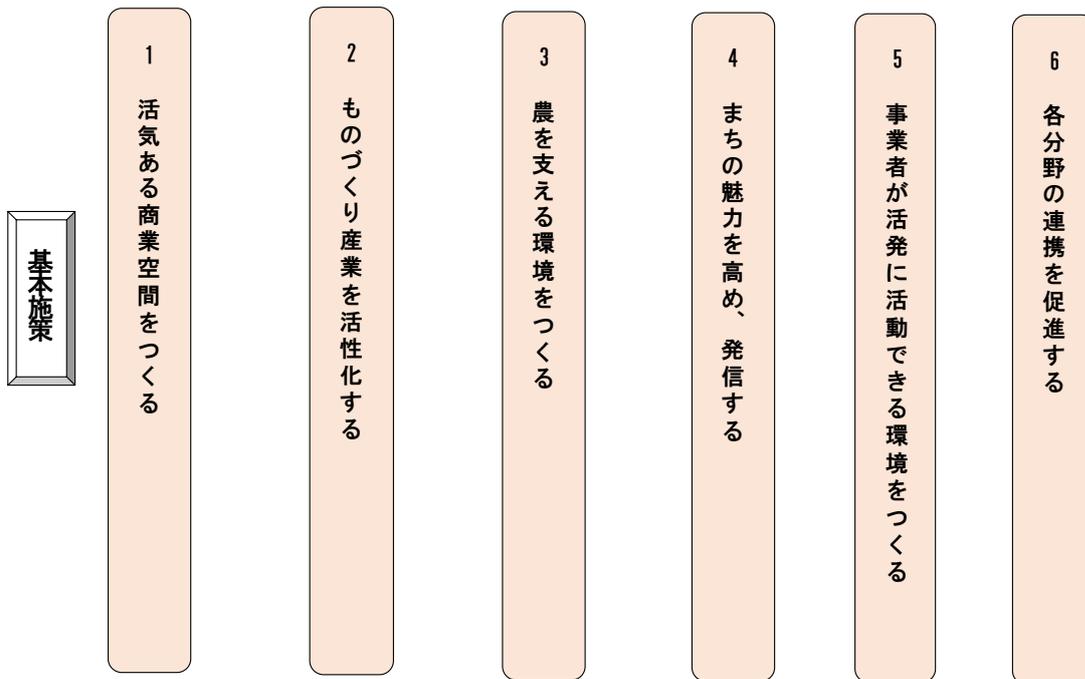


産業振興基本条例



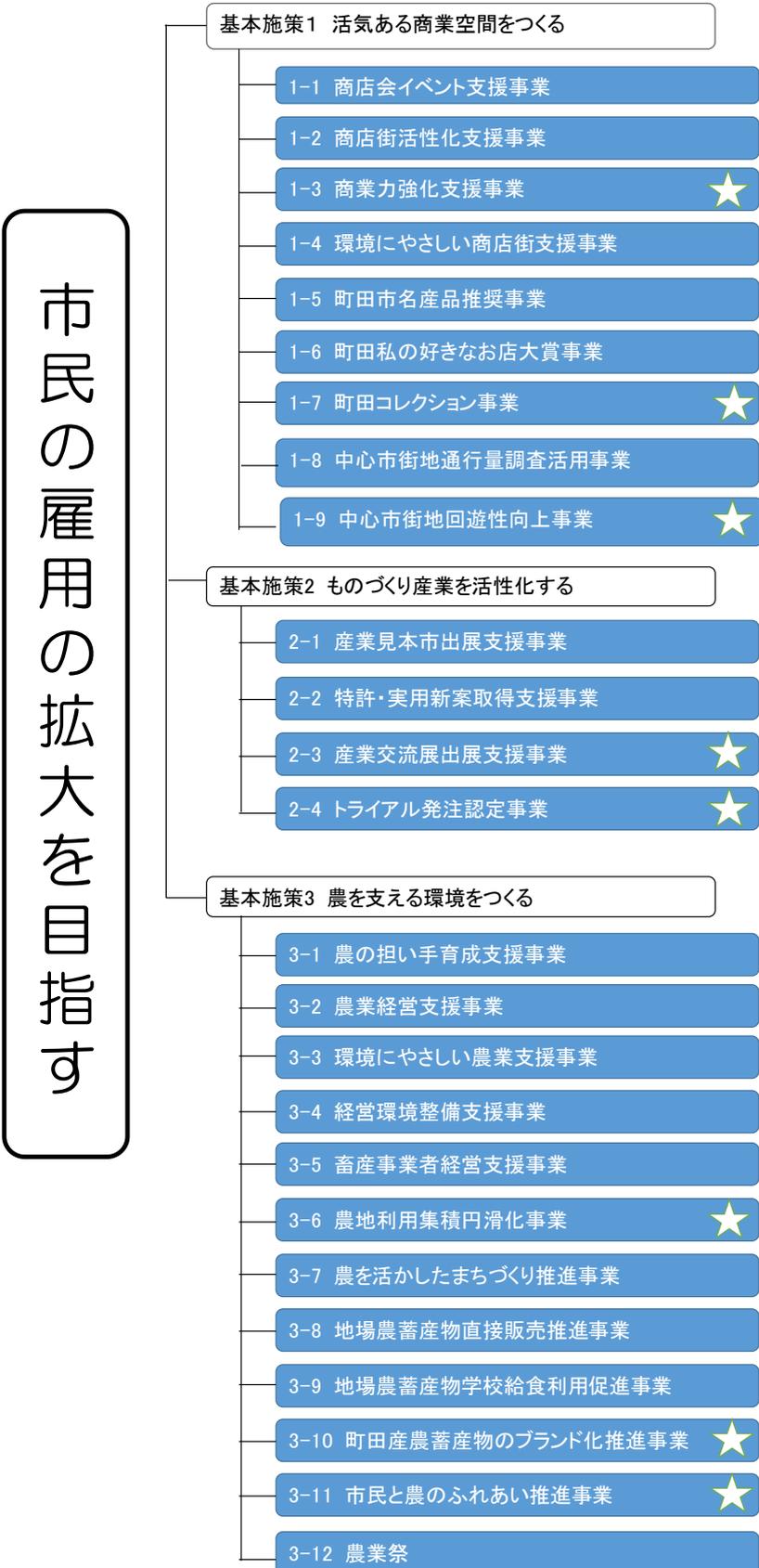
新・産業振興計画

基本目標	市民の雇用の拡大を目指す
------	--------------



(5) 施策体系

☆ 新・産業振興計画新規事業



# 市民の雇用の拡大を目指す

## 基本施策4 まちの魅力を高め、発信する

- 4-1 町田さくらまつり ★
- 4-2 キラリ☆まちだ祭
- 4-3 観光拠点づくり事業
- 4-4 フットパス振興事業
- 4-5 観光人材育成事業
- 4-6 観光まちづくり協働事業
- 4-7 シティセールス事業 ★
- 4-8 コンベンション誘致事業

## 基本施策5 事業者が活発に活動できる環境をつくる

- 5-1 起業・創業支援事業
- 5-2 企業誘致事業
- 5-3 経営安定支援事業
- 5-4 中小企業支援ネットワーク事業 ★
- 5-5 リスクマネジメント推進事業
- 5-6 中小企業融資事業
- 5-7 小規模事業者経営改善資金融資事業
- 5-8 商工業者後継者支援事業
- 5-9 技能功労者・永年勤続従業員表彰事業
- 5-10 地元企業就職促進事業
- 5-11 若年者雇用促進事業 ★
- 5-12 キャリア形成支援事業
- 5-13 経営者・従業員スキルアップ支援事業 ★
- 5-14 中小企業退職金共済支援事業
- 5-15 従業員福利厚生事業
- 5-16 ワーク・ライフ・バランス推進事業 ★
- 5-17 従業員支援事業 ★

## 基本施策6 各分野の連携を促進する

- 6-1 農・商・工連携促進事業 ★
- 6-2 産学連携促進事業

## 第2章 町田市新・産業振興計画の取り組み結果

---

### (1) 2014年度から2018年度までの5カ年の取り組み結果

「市民の雇用の拡大を目指す」という基本目標については、指標としていた「有効求人倍率」の目標値0.46に対して0.60の実績値となりました。また、もう一つの指標である「納税義務者数」についても目標値192,000人に対して199,235人の実績値となり、両指標ともに目標を達成することができました。

推進事業については、「◎」（目標に対して110%以上の実績）及び「○」（目標に対して90%以上110%未満の実績）の合計は39事業となり、全体の54%となりました。

主な推進事業の取り組み結果として、推進事業3-6「農地利用集積円滑化事業」では、農地を借りたい新規就農者と遊休農地を保有している農業者とのマッチングを行うことで、新規就農者の増加及び遊休農地の解消を促進することができました。

推進事業4-3「観光拠点づくり事業」では、町田観光ブランドの向上を目的に、小野路宿里山交流館の集客機能の強化を図りました。各種イベントや企画展の実施をしたことに加えて、地元産野菜や工芸品等の販売や、地元の食材を使った飲食の提供を行ったことで、目標を大きく上回る来館者にお越しいただくことができました。

また、推進事業5-4「中小企業支援ネットワーク事業」では、国や都の中小企業支援施策を活用して専門家等を派遣し、企業ごとの経営課題に対して個別支援を実施しました。2018年4月からは町田商工会議所内に「多摩ビジネスサポートセンター」が設置されたことにより、支援の件数が大幅に伸びました。

全ての推進事業の取り組み結果は、7ページ以降に記載しています。

2019年3月には、10年後を見据えた産業振興の方向性を示す「町田市産業振興計画19-28」を策定しました。今後もビジネスの場や働く場として町田市が「選ばれるまち」であり続けるために様々な取り組みを進めていきます。

(2) 基本目標の達成状況

基本目標	市民の雇用の拡大を目指す		
指標	2012年度 (策定時)	2018年度 (目標値)	2018年度 (実績値)
有効求人倍率	0.33	0.46	0.60
納税義務者数	189,513	192,000	199,235

(3) 推進事業の目標達成状況

基本施策		事業数				事業数 — (※)
		◎	○	△	合計	
1	活気ある商業空間をつくる	3	5	6	14	1
2	ものづくり産業を活性化する	2	2	0	4	0
3	農を支える環境をつくる	2	7	9	18	0
4	まちの魅力を高め、発信する	4	1	6	11	0
5	事業者が活発に活動できる環境をつくる	5	6	10	21	10
6	各分野の連携を促進する	2	0	2	4	0
合計		18 (25%)	21 (29%)	33 (46%)	72 (100%)	11

◎：目標に対して110%以上の実績

○：目標に対して90%以上110%未満の実績

△：目標に対して90%未満の実績

※事業終了等の理由で達成度の判定ができない推進事業は、事業数に含めていません。

## 1. 「活気ある商業空間をつくる」

• 推進事業 1-1 商店会イベント支援事業

---

• 推進事業 1-2 商店街活性化支援事業

---

• 推進事業 1-3 商業力強化支援事業

---

• 推進事業 1-4 環境にやさしい商店街支援事業

---

• 推進事業 1-5 町田市名産品推奨事業

---

• 推進事業 1-6 町田私の好きなお店大賞事業

---

• 推進事業 1-7 町田コレクション事業

---

• 推進事業 1-8 中心市街地通行量調査活用事業

---

• 推進事業 1-9 中心市街地回遊性向上事業

---

# ◇ 1-1 商店会イベント支援事業

達成度 △

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店会と地域住民との交流促進</li> <li>・商店街の魅力増進</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>東京都の新・元気を出せ！商店街事業補助制度を活用して、商店会が主催する夏祭りやクリスマスイベント、大売出しなどのイベントに係る経費の一部を補助します。また、市単独の補助事業として、商店会が自治会等と共催で行う夏祭りや、クリスマスイベント等のイベントに係る経費の一部を補助します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市（産業政策課）</li> </ul>				
指標	イベント来場者数			策定時 (2012年度) 目標 (2018年度)	1,539,990人 1,700,000人
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	1,326,586人	1,357,606人	1,388,973人	1,257,900人	1,300,108人
事業費	50,329千円	48,190千円	48,182千円	48,917千円	50,542千円
2018年度の取り組み	<p>商店街イベント事業：46件（町田市商店街チャレンジ戦略支援事業：41件、町田市地域連携型商店街事業：5件）補助金申請があり、中止となった1件を除く45件のイベント事業に補助金を交付しました。</p> <p>前年度から来場者数が増加した理由は、長期間にわたって開催されるイベントが増加したことなどによります。</p> <p>補助対象の商店街イベントについては、市HPでの事前告知、市施設へのポスターやチラシの掲示・設置を行うなど、活性化に向けたPRを行いました。</p> <p>来場者数は、原町田四丁目商店会など町田駅周辺の7商店会が主催した『フェスタまちだ2018』が15万人、町田二番街商店会主催『町田二番街商店会 イルミネーションのタベ』が10万人などと、数多くの方がイベントを訪れ、まちの賑わい創出や商店会と地域住民との交流促進、商店街の魅力増進につながりました。</p>				
5年間の総括	<p>指標のイベント来場者数については、商店会数の減少やイベント規模の縮小により、目標を達成できませんでした。</p> <p>2017年度に商店街巡回相談事業、2018年度から商店街専門家派遣事業を実施し、これらのイベント事業の改善を含め、商店会の魅力向上や賑わいの創出に向けた取り組みを進めました。</p>				

# ◇ 1-2 商店街活性化支援事業

達成度 △

取り組みの概要	<目的・狙い> ・商店街の活力の向上 ・商店街の魅力増進				
	<内容> 東京都の新・元気を出せ！商店街事業補助制度を活用して、商店会が実施する商店街の施設改善や、サービス向上事業などの商店街活性化事業に係る経費の一部を補助します。				
	<実施主体> ・町田市（産業政策課）				
指標	活性化事業実施件数			策定時 (2012年度)	1件
				目標 (2018年度)	4件
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	0件	2件	3件	3件	2件
事業費	0千円	560千円	4,712千円	4,395千円	668千円
2018年度の取り組み	商店会が実施する、商店街のさらなる活性化に向けた施設改善に係る経費について、2件補助をしました。  <b>【実績】</b> ・栄通り商店会『モニュメント街路灯改修工事事業』（老朽化した街路灯の改修） ・山崎団地名店会『ぽんぽこ広場遊具設置』（遊具の設置）				
5年間の総括	指標の活性化事業実施件数について、商店街の緑化事業やホームページの多言語対応など、来街者のニーズに即した幅広い事業に対して補助を行いました。が、目標件数は達成できませんでした。				

# ◇ 1-3 商業力強化支援事業 ☆

達成度	① ②	◎ -
-----	--------	--------

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来街者・消費者のニーズや消費傾向の把握</li> <li>・ 事業者の活力の向上</li> <li>・ 事業者の魅力増進</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>価格や品質、ブランド力など不特定の消費者の購買決定要因をヒアリング調査し傾向を分析する消費者購買調査、商店主に対して売上、店舗、課題などをヒアリング調査し傾向を分析する商店街調査、個店に来店する顧客に対し、該当店舗を選択する理由などを記入調査し分析する事業者顧客調査など商業振興のための調査等を3年ごとに実施します。</p> <p>消費者並びに商店主等への調査結果に基づき、消費者に選択される小売店となるための店舗運営、商品選択並びに陳列の研修、及び時代にあったネット通販への研修を実施する商人大学校(※)を行い、商業力向上のための支援をします。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田商工会議所</li> <li>・ 町田市（産業政策課）</li> </ul>				
指標	①調査の実施回数（累計） ②商人大学（付加価値経営大学）等のセミナーの参加者数			策定時 (2012年度)	①- ②-
				目標 (2018年度)	①2回(累計) ②20人
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①0回(累計) ②93人	①1回(累計) ②212名	①6回(累計) ②109名	①7回(累計) ②未実施	①7回(累計) ②未実施
事業費	200千円	0千円	0千円	3,813千円	0千円
2018年度の取り組み	<p>町田商工会議所では、消費者需要動向調査の実施と調査結果に基づくセミナーの開催を予定していましたが、事業者の経営改善にさらに活用できる内容となるよう、事業の見直しを行ったため、2018年度は実施しませんでした。</p> <p>市では、2017年度に実施した市内商店会での中小企業診断士等派遣による巡回相談事業により浮き彫りになった課題を解決するため、東京都の制度を活用し、各商店会への専門家派遣を実施し、個別にアドバイスを行いました。</p>				
5年間の総括	<p>指標①の「調査の実施」については目標値2回（累計）のところを5年間で7回（累計）実施し、目標を達成しました。指標②のセミナー参加者数については、東京都の補助事業として「商人大学（付加価値経営大学）」等のセミナーを行っていましたが、2017年から打ち切りとなったため、未実施となりました。</p>				

※ 商人大学校とは、小売業者を中心に経営に付加価値をつけて、大型店や他店との差別化を図る経営を学ぶセミナーのことです。東京都の意向で、2014年度から「付加価値経営大学」と名称を変更しました。

# ◇ 1-4 環境にやさしい商店街支援事業

達成度 ○

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境にやさしい商店街の育成</li> <li>・商店街の魅力増進</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>商店会が所有する街路灯のLED化を推進するため、東京都特定施策推進型商店会事業補助制度を活用して、LED化を行う商店会に対し経費の一部を補助します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市（産業政策課）</li> </ul>				
指標	商店街街路灯等LED照明導入商店会数(累計)			策定時 (2012年度) 目標 (2018年度)	5商店会(累計)  10商店会(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	8商店会(累計)	9商店会(累計)	9商店会(累計)	10商店会(累計)	10商店会(累計)
事業費	836千円	500千円	0千円	396千円	0千円
2018年度の取り組み	<p>2018年度に新たに街路灯のLED化に取り組む商店会はありませんでした。</p> <p>市のホームページなどを通じ、支援制度やLED化によるメリットに関する周知を行いました。LED化に前向きな検討をしている商店会に対しては、現地を訪問しながら具体的な説明を行った結果、2019年度以降のLED化に向けた検討を始めた商店会もありました。</p>				
5年間の総括	<p>5年間で、5商店会が街路灯のLED化を行い、平均で約50%の電気代削減に繋がりました。指標に掲げる目標数値を達成し、環境への配慮及び省エネによる商店会の運営費削減へつなげました。</p>				

# ◇ 1-5 町田市名産品推奨事業

達成度 ①△ ②○  
③◎

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「町田の名産品」として誇れる商品の発掘・育成</li> <li>・町田市の魅力の発信</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>市内で生産、製造(加工)される食品又は工芸(業)品であること、法令に違反しないものであること、名称、意匠及び材料が町田市にふさわしい要素を有するものであること、価格が適当と認められるもの、という推奨基準を満たす品質が優良な商品を「町田市名産品」として隔年で認定し、市内外でのPRを実施し販売促進を支援していきます。</p> <p>また、町田市庁舎内「生活彩家」、「町田ツーリストギャラリー」及び「まちだ名産品の店心和(ここわ)」の3箇所が現在の常設販売場所であり、今後、常設販売場所の増設を検討します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田商工会議所</li> <li>・町田市(産業政策課)</li> </ul>				
指標	①町田市名産品の販売拠点数 ②町田市名産品の商品数 ③町田市名産品シールの販売枚数			策定時 (2012年度)	①3箇所 ②40品 ③147,000枚
				目標 (2018年度)	①4箇所 ②45品 ③200,000枚
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①3箇所 ②54品 ③198,000枚	①3箇所 ②53品 ③113,000枚	①3箇所 ②60品 ③101,000枚	①3箇所 ②60品 ③142,000枚	①3箇所 ②62品 ③260,000枚
事業費	643千円	155千円	500千円	400千円	1,150千円
2018年度の取り組み	<p>隔年で実施している審査会の開催にあたり、市民の声等をふまえ、従来の推奨基準の見直しを図りました。第18回町田市名産品の認定では、前回認定時から商品数が2品増え62品となり、新規商品認定に合わせ新たなパンフレットを作成し、常設販売所等への配布・周知協力依頼などを行いました。</p> <p>また、第18回名産品のお披露目の場として10月18日～19日に市庁舎正面玄関前にて販売会「秋のまちだ名産品フェア」を開催し、3月28日～29日の二日間でも同様の販売会を開催し、市民へより広く名産品のPRを行いました。他にも、市内で開催された各種イベントへの出店を通じて、町田市名産品の販売促進や周知を行いました。固定の販売拠点を増やすことはできませんでした。</p> <p>町田市名産品シールの販売枚数は、認定年度であったことや、小さく使いやすいシールが事業者に人気だったことにより、大幅な増加となりました。</p>				
5年間の総括	<p>まちだ名産品のれん会(※)及び町田市が連携しながら、町田市名産品の普及活動を推進してきました。この5年の間に屋外での販売会の開催、まちだ名産品ホームページのスマートフォン対応化など新たな取り組みを行いました。</p> <p>当初目標3点のうち②商品数③シール販売枚数は目標を大きく超える結果となりました。①販売拠点数を4箇所に増設するという目標については、商品の管理や既存店舗の販売状況等から増設することができず、目標を達成できませんでした。</p>				

※ 「まちだ名産品のれん会」とは、商品が町田市名産品として認定を受けた事業者で組織する会のことです。

# ◇ 1-6 町田私の好きなお店大賞事業

達成度 △

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個性的で魅力のあるお店の発掘・育成</li> <li>・ 町田市の魅力の発信</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>お客様から高い評価を受けている市内のお店(小売業、飲食業、サービス業(理容・美容・整体等))を「私の好きなお店大賞」(※)として毎年表彰し、PRを実施し販売促進を支援していきます。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田商工会議所</li> </ul>				
指標	お店大賞受賞店舗数(累計)			策定時 (2012年度) 60件(累計)	目標 (2018年度) 100件(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	68件(累計)	72件(累計)	79件(累計)	84件(累計)	87件(累計)
事業費	613千円	305千円	750千円	900千円	800千円
2018年度の取り組み	<p>11月から翌年1月までの2か月間、「第14回 町田私の好きなお店大賞」の一般投票を実施しました。投票にかかる周知方法について、従来のチラシに加え、商店会連合会へのポスター掲出の協力を受けたものの懸垂幕や横断幕の設置等を見合わせたことや、キラリ☆まちだ祭での来場者投票を見合わせたことにより、投票数は対前年比約55%の608票となりました。</p> <p>得票数が多い店舗に対し、実行委員会による実訪審査などを行い、最終的に3店舗を大賞に選出しました。受賞店舗については、町田市及び町田商工会議所のホームページや発行物、地域情報誌への掲載などを通じて広くPRを実施しました。</p> <p>■ 受賞店舗</p> <p>小売業部門 「ハッピーメガネ鶴川店」(めがね・能ヶ谷)</p> <p>飲食業部門 「なごみ庵 恵」(洋食店・鶴間)</p> <p>サービス業部門 「美容室フラップフラット」(美容室・原町田)</p>				
5年間の総括	<p>消費者による評価の高いお店を表彰することにより、個性的で魅力ある店舗をつくり、商品構成やメニュー開発に意識を高めていただくことができました。また同賞の認知度も高まりつつあり、創業間もない店の目標となってきました。毎年度各部門3店舗ずつ、9店舗を大賞に選出予定でしたが、得票数が少なかった店舗を大賞としなかったため、目標を達成することができませんでした。</p>				

※ 私の好きなお店大賞とは、市内の小売業、飲食業、サービス業(理容・美容・整体等)を対象に、多くの消費者から推薦を受けた店舗を表彰する制度です。推薦数の多い店舗を中小企業診断士等が訪問審査し、専門的な視点で表彰の可否を検討します。

# ◇ 1-7 町田コレクション事業



達成度	① ○
	② △

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の商品開発と販売意欲の増進</li> <li>・町田市の魅力の発信</li> </ul> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>毎年違うジャンルを選定し、テーマを決めた商品コレクションを集めて顧客に提供し、PRを実施し販売促進を支援していきます。</p> <p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田商工会議所</li> <li>・町田市（産業政策課）</li> </ul>					
	指標	①コレクション事業の実施回数(累計)			策定時 (2012年度)	① -
		②商品アイテム数(累計)			目標 (2018年度)	② -
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
達成状況	①0回(累計) ②0アイテム (累計)	①1回(累計) ②3アイテム (累計)	①2回(累計) ②5アイテム (累計)	①3回(累計) ②8アイテム (累計)	①5回(累計) ②12アイテム (累計)	
事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
2018年度の取り組み	<p>地域産業資源である「まちだシルクメロン」の販売促進を目指し、2017年度に引き続き「まちだシルクメロン」をコレクションのテーマに選定しました。</p> <p>「まちだシルクメロン」のピューレを使用した開発商品を募集し、6月4日及び12月17日の2回の審査会（①コレクション事業）を通じて、以下4商品に対して商標権の使用を許可しました。許可した商品は、町田市及び町田商工会議所のホームページや発行物、地域情報誌、まちだシルクメロンホームページ等に掲載し、広くPRしました。</p> <p>【2018年度に「まちだシルクメロン」商標権の使用を許可したアイテム(商品)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「まちだシルクメロンどら焼きパンケーキ」（玉川虎屋／玉川学園）</li> <li>②「絹の滴（ボンボンショコラ）」（スワンベーカリー町田店／中町）</li> <li>③「まちだシルクメロンラスク」（㈱エピソード／函師）</li> <li>④「東京シルクメロンゼリー」（NPO法人プラナス／小山町）</li> </ul>					
5年間の総括	<p>コレクション事業の実施回数は目標を達成しました。まちだシルクメロン（及びピューレ）を使用した商品試作に参加した事業者は、2017年度22者、2018年度15者と毎年10者以上ありましたが、商品化には至らず、アイテム（商品）数の目標達成率は約10%となりました。</p>					

※ 2015年度のコレクション数は累計で5アイテムでしたが、辞退が2件あったため、3アイテムに修正しました。

※ 2016年度のコレクション数は累計で6アイテムでしたが、辞退が1件あったため、5アイテムに修正しました。

# ◇ 1 - 8 中心市街地通行量調査活用事業

達成度 ①○ ②○  
③△

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地における通行量の継続的な把握</li> <li>・ 中心市街地の魅力増進</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>1989年から継続的に実施している中心市街地通行量調査及び報告会を毎年実施し、調査結果を街づくりや店づくり等に活用いただくためのデータ提供を行っています。さらに、2014年度、2017年度には、誰が(年齢、性別)、どこから(居住地)、なんの目的で(買物、飲食等)来街したか、どんな意識、要望を持っているかなどを調べる来街者アンケートを実施します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田市 (産業政策課)</li> <li>・ 町田市中心市街地活性化協議会</li> </ul>				
指標	①中心市街地通行量調査の実施回数 ②来街者アンケート調査の実施回数(累計) ③報告会の参加事業者数			策定時 (2012年度)  目標 (2018年度)	①1回 ②- ③30人  ①1回 ②2回(累計) ③50人
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①1回 ②0回(累計) ③30人	未実施	①1回 ②1回(累計) ③31人	①1回 ②1回(累計) ③32人	①1回 ②2回(累計) ③19人
事業費	2,078千円	-	2,037千円	2,108千円	2,089千円
2018年度の取り組み	2018年11月25日に、中心市街地活性化協議会が中心市街地において通行量調査を実施しました。 来街者アンケート調査は、原町田大通り活用実証実験と併せて、2019年3月18日から25日の間で実施しました。アンケート調査の結果、中心市街地の街中に憩いの場を求める回答が多くありました。 報告会の参加事業者数は、日程の都合がつかない事業者が多く、19人と前年度から比較して13人減少し、目標値に達していません。				
5年間の総括	中心市街地通行量調査は、引き続き実施し、通行量の継続的な把握を行います。調査結果については、報告会を通して、地元商店会に情報提供を行い、中心市街地の活性化対策に活用します。 アンケート調査の結果は、中心市街地活性化協議会と協働で実施しているプロジェクトの推進に反映します。				

# ◇ 1 - 9 中心市街地回遊性向上事業 ☆

達成度 ○

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地における安全・安心で快適な歩行環境の形成</li> <li>・ 中心市街地の主要な道路等の空間を活用した活性化の推進</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>町田市中心市街地において賑わい拠点である広場空間の活用、また、「誰もが快適に歩くことができるまち」の実現に向け、拠点をつなぐ動線である道路・歩道の活用、魅力的な街並みや店舗等の活用により、賑わいづくりおよび回遊性向上を図ります。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田市（産業政策課）</li> <li>・ 町田市中心市街地活性化協議会</li> </ul>				
指標	中心市街地通行量（中学生以上の歩行者及び自転車の通過数）			策定時 (2012年度)	632千人
				目標 (2018年度)	657千人
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	600千人	未実施	525千人	581千人	619千人
事業費	14,988千円	-	3,799千円	1,294千円	3,460千円
2018年度の取り組み	<p>2018年11月25日に実施した中心市街地通行量は、619,386人で、2017年度比6.6%増でした。年に1度の中心市街地通行量調査を補完するものとして、継続的な通行量を把握するため、ペDESTリアンデッキ上（8カ所）に通行量調査機器を設置しました。</p> <p>「町田市中心市街地まちづくり計画」に基づき、中心市街地に新たな憩いの場を創出するため、公共空間を利活用して、2019年3月18日から25日の間に以下の原町田大通り活用実証実験を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東急ツインズ公開空地にて休憩スペース・ケータリングカーの設置</li> <li>・ ペDESTリアンデッキにカウンターテーブルの設置</li> <li>・ 東急ツインズ通路壁面にグラフィックアートの設置</li> </ul> <p>また、2018年度から「ちびヒロ」（※）を町田ターミナルプラザ市民広場で常設化しました。</p>				
5年間の総括	<p>「町田市中心市街地まちづくり計画」に基づき、「町田市中心市街地活性化協議会」と協働で、回遊性向上に向けた実証実験及び具体的な取り組み手法の検討を行いました。今後は、シバヒロでの賑わい空間を創出するため、特設WEBの立ち上げや、町田みんなのプラットフォームを設置し、中心市街地でのイベント情報等の発信を強化します。</p> <p>中心市街地通行量を見ると、2018年度は目標値の657千人には届きませんでした。また、年1回の通行量調査は天候やイベントの有無などの影響で大きく増減するため、24時間定点調査できる補足調査を行い、通行量の分析を行います。</p>				

※ 「ちびヒロ」とは、子どもが自由に裸足で遊べる芝生広場(人工芝+コーナークッション+遊具)のことです。

## 2. 「ものづくり産業を活性化する」

• 推進事業 2-1 産業見本市出展支援事業

• 推進事業 2-2 特許・実用新案取得支援事業

• 推進事業 2-3 産業交流展出展支援事業

• 推進事業 2-4 トライアル発注認定事業



## ◇ 2 - 1 産業見本市出展支援事業

達成度

◎

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内ものづくり事業者の事業機会の拡大</li> <li>・町田市の魅力の発信</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>市内の中小企業者等が、市外で実施される産業見本市に出展する際の費用の一部を補助し、当該中小企業者の技術や製品の積極的なPRを促進していくことと併せて、町田市のものづくり産業の実力をアピールしていきます。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市（産業政策課）</li> </ul>				
指標	産業見本市出展事業者数			策定時 (2012年度)	5社
				目標 (2018年度)	12社
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	10社	10社	15社	13社	19社
事業費	1,236千円	1,538千円	2,050千円	2,120千円	3,011千円
2018年度の取り組み	<p>2018年度からは、小規模事業者に対する補助割合の拡大（1/2→2/3）、海外見本市出展支援枠の拡充を行った結果、過去最高となる19社の市内中小企業者への補助を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内見本市・展示会：18件（会場使用料の一部を補助） 「第45回国際福祉機器展」、「人工知能/AI2018」、「第40回工業技術見本市テクニカルショウヨコハマ2019」など</li> <li>■ 海外見本市・展示会：1件（外国語冊子作成に係る費用の一部を補助）</li> </ul> <p>制度については、市の広報紙とホームページのほか、町田商工会議所や市内金融機関を通じて積極的に事業者へ周知しました。</p>				
5年間の総括	<p>アンケートやヒアリングにより事業者のニーズを集めながら、小規模事業者への補助割合拡大や、海外見本市出展に対する支援の対象者拡大など、制度の充実を図りました。また、新たに支援内容を説明するチラシを配布するなど、本制度に関する周知を強化しました。その結果、指標の目標件数を大きく上回ることができました。</p>				

## ◇ 2-2 特許・実用新案取得支援事業

達成度	◎
-----	---

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内ものづくり事業者の事業機会の拡大</li> <li>・市内ものづくり事業者の技術力の向上</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>市内の中小企業者が、特許や実用新案を取得する際の費用の一部を補助し、事業者の独自の技術やノウハウの開発を促進していきます。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市（産業政策課）</li> </ul>				
指標	特許・実用新案取得支援件数			策定時 (2012年度)	9件/年
				目標 (2018年度)	9件/年
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	7件/年	6件/年	4件/年	8件/年	13件/年
事業費	187千円	200千円	250千円	712千円	1,013千円
2018年度の取り組み	<p>市内の中小企業者が、産業財産権（※）を取得する際にかかる費用（印紙代、弁理士手数料等）について、13件の補助をしました。</p> <p>加えて、産業財産権に関する啓発を目的として、セミナー等を3回開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本弁理士会、日本政策金融公庫等との共催による、ワークショップ型の知的財産セミナー（2019年2月22日開催、20名参加）</li> <li>■ 日本弁理士会、(株)町田新産業創造センターとの共催による、小学生を対象にした発明体験教室（2018年8月5日開催、24名参加 2019年3月30日開催、20名参加）</li> </ul>				
5年間の総括	<p>アンケートやヒアリングにより事業者のニーズを把握しながら、小規模事業者への補助割合の拡大等、制度の充実を図った結果、指標の目標件数を達成し、事業者の独自の技術やノウハウの開発を促進しました。</p> <p>また、産業財産権に関するセミナー等の啓発事業を通じて、事業者の権利取得に向けた意識づけを行うことができました。</p>				

※産業財産権：特許権・実用新案権・意匠権・商標権

## ◇ 2 - 3 産業交流展出展支援事業 ☆

達成度

○

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内ものづくり事業者の事業機会の拡大 ・町田市の魅力の発信				
	<内容> 町田市が東京都主催の産業交流展(※)に出展場所を確保し、市内の中小企業者・団体などに出展場所を提供します。当該中小企業等の技術や製品の積極的なPRを促進していくことと併せて、町田市のものづくり産業の実力をアピールしていきます。				
	<実施主体> ・町田市（産業政策課）				
指標	産業交流展出展事業所数			策定時 (2012年度)	4社
				目標 (2018年度)	4社
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	5社	3社	4社	4社	4社
事業費	314千円	216千円	527千円	548千円	652千円
2018年度の取り組み	東京都が主催する「産業交流展2018」（2018年11月14日～11月16日開催）において、市が借り上げた4小間（ブース）に、市内の中小企業4社が出展しました。 「まちだテクノパーク」（※）と連携し、町田市に関連するブースを1か所に集めて出展したことで、町田市の企業及びものづくり産業について、より効果的なPRやマッチングの促進を実施することができました。				
5年間の総括	市内事業者に対して積極的に出展を案内することで、指標の目標件数を達成することができ、町田市のものづくり産業をアピールすることができました。 2016年度からは「まちだテクノパーク」と連携した出展形式としたことで、PR効果をより高めることができました。				

※ 「産業交流展」とは、原則として、首都圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）に事業所を有する個性あふれる中小企業・団体などの優れた技術や製品を一堂に展示し、販路拡大、企業間連携の実現、情報収集・交換などのビジネスチャンスを提供することを目的として開催される展示会です。出展の対象となるのは、「情報」「環境」「医療・福祉」「機械・金属」に属する分野です。

※ 「まちだテクノパーク（多摩事業高度化協同組合）」とは、国際的にもトップクラスの優れた技術を持つ企業の集積による新たな創造を生み出すことを目的として、2001年に小山ヶ丘に開設された工業団地です。常時、15～20社の企業が入居し、互いの技術や強みを共有しながら共同開発等を行い、「まちだシルクメロン」を栽培する「町田式水耕栽培槽」など、ユニークな商品も生み出しています。

# ◇ 2-4 トライアル発注認定事業 ☆

達成度 ○

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内ものづくり事業者の新商品の普及 ・市内ものづくり事業者の事業機会の拡大 ・市内ものづくり事業者の技術力の向上				
	<内容> 地方自治法施行令第167条の2第1項第4号に規定する新商品の生産により、新たな事業分野の開拓を図る事業者及びその事業者が、新商品として生産する物品を認定し、その認定商品をPRすることにより、新商品の普及を促進していきます。				
	<実施主体> ・町田市（産業政策課）				
指標	トライアル発注認定商品数(累計)			策定時(2012年度)	—
				目標(2018年度)	35(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	14(累計)	16(累計)	19(累計)	24(累計)	33(累計)
事業費	1,488千円	1,383千円	1,321千円	851千円	1,018千円
2018年度の取り組み	<p>9事業者12商品の応募があり、書類審査及び専門家による意見聴取の結果、6事業者9商品を認定し、累計33商品となりました。</p> <p>認定商品は、記者会見や市の広報紙・ホームページ、認定商品カタログ、各種イベントでの展示等を通じてPRを行いました。</p> <p>また、事業者の販路拡大支援として、東京都中小企業振興公社が実施する「ニューマーケット開拓支援事業」との連携を11月に開始し、市のトライアル認定を受けると審査の優遇を受けられるようになりました。</p> <p>【2018年度認定商品】</p> <p>①「POSTCARD TOY series」toy-spice!                  ②「トランシーバー専用オープンイヤホン」株式会社オンザウェイ                  ③「SOLR LANTERN」株式会社TRYL                  ④「Near-line ATB」グアドコジャパン株式会社                  ⑤「脳バランスキッズ」レデックス株式会社                  ⑥「低床用フロアコンセントLSFシリーズ」                  ⑦「プラグ収納コンセントLCR」                  ⑧「埋込USB+A/C給電用コンセント」                  ⑨「まもれーるシリーズ」（⑥～⑨は、いずれも株式会社寺田電機製作所）</p>				
5年間の総括	<p>申請商品の減少に対応するため、2016年度から認定ロゴの作成・配布やカタログの一新、「まちだ名産品」「まち☆ベジ」との一体的なPR等のブランディングを始めましたが、指標の目標件数には至りませんでした。</p> <p>認定した事業者に対しては、付加価値の向上や販路の拡大に向け、東京都中小企業振興公社の「ニューマーケット開拓事業」と連携した取り組みを2018年度から行いました。</p>				

地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)

(定義)

第六十七條の二 地方自治法第二百三十四條第二項の規定により随意契約によることができる場合は、次に掲げる場合とする。

四 新商品の生産により新たな事業分野の開拓を図る者として総務省令で定めるところにより普通地方公共団体の長の認定を受けた者が新商品として生産する物品を、普通地方公共団体の規則で定める手続により、買い入れる契約をするとき。

### 3. 「農を支える環境をつくる」

• 推進事業 3-1 農の担い手育成支援事業

---

• 推進事業 3-2 農業経営支援事業

---

• 推進事業 3-3 環境にやさしい農業支援事業

---

• 推進事業 3-4 経営環境整備支援事業

---

• 推進事業 3-5 畜産事業者経営支援事業

---

• 推進事業 3-6 農地利用集積円滑化事業

---

• 推進事業 3-7 農を活かしたまちづくり推進事業

---

• 推進事業 3-8 地場農畜産物直接販売推進事業

---

• 推進事業 3-9 地場農畜産物学校給食利用促進事業

---

• 推進事業 3-10 町田産農畜産物のブランド化推進事業

---

• 推進事業 3-11 市民と農のふれあい推進事業

---

• 推進事業 3-12 農業祭

---

### ◇ 3 - 1 農の担い手育成支援事業

達成度	① ○ ② △
-----	------------

取り組みの概要	<目的・狙い> ・農の担い手の育成				
	<内容> 町田市研修農場(小野路町)を拠点として、町田市農業協同組合やNPO法人等と連携しながら農業研修を実施し、新たな「農の担い手」を育成します。 また、修了生のうち希望者には農地あっせん事業で新規就農ができるよう支援します。				
	<実施主体> ・町田市(農業振興課)				
指標	①町田市農業研修修了生数(累計) ②修了生のうちあっせんを受けて就農した人数(累計)	策定時 (2012年度)		①23人(累計) ②2人(累計)	
		目標 (2018年度)		①80人(累計) ②20人(累計)	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①44人(累計) ②10人(累計)	①56人(累計) ②10人(累計)	①67人(累計) ②10人(累計)	①74人(累計) ②10人(累計)	①85人(累計) ②11人(累計)
事業費	5,541千円	5,598千円	5,093千円	5,151千円	6,566千円
2018年度の取り組み	農の担い手の育成を目的として、農業研修事業を実施し、8期生11人が2年間の研修を修了しました。また、9期生10人が1年目の研修を修了しました。 修了生のうち、1人に農地をあっせんすることができ、就農につなげることができました。				
5年間の総括	2014年度から2018年度の5年間で、41人が農業研修を修了しました。 そのうち17人が農地のあっせんをうけるために担い手バンクに登録し、1人が農地のあっせんを受けて就農しました。 農地バンク登録面積の減少等によって、修了生が就農出来ていないケースが見られるため、次年度以降は研修修了後の支援策についても検討していきます。				

## ◇ 3 - 2 農業経営支援事業

達成度

○

取り組みの概要	<目的・狙い>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業経営の安定化</li> <li>・ 市内農業の活性化</li> </ul>				
	<内容> 町田市農業の中心的存在となる農業者を、認定農業者(※)として認定します。認定農業者を対象とした研修会等を開催し、経営の支援を行います。 また、町田市認定農業者連絡協議会の活動を支援し、市内農業の活性化を図ります。				
指標	<実施主体>				
	・ 町田市（農業振興課、農業委員会）				
	市内認定農業者数		策定時 (2012年度)	90人	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	93人	91人	91人	88人	89人
事業費	50千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	農業協同組合や東京都と協力して、農業者に認定農業者の認定の呼び掛けや、相談対応などを行いました。これにより、新たに6人が認定農業者となりましたが、高齢等により5人の方が更新を辞退しました。これにより、市内の認定農業者は、昨年度より1人増え、89人となりました。 また、認定農業者で組織する認定農業者連絡協議会が、農業経営改善を目的とした視察研修、講習会及び農業委員会との意見交換を各1回開催しました。				
5年間の総括	認定農業者数の増加を図るために、新規の認定希望者等へ認定農業者制度についての説明を行いました。また、認定農業者連絡協議会が開催する研修会等の活動支援を行いました。 市内認定農業者数は、農業者の高齢化等により計画策定時から1名の減少となってしまいましたが、今後、認定農業者数を増加出来るように取り組みます。				

※ 認定農業者とは、農業経営基盤強化促進法に基づき5年間の農業経営改善計画を立て、意欲ある農業者として市町村の認定を受けた農業経営者・農業生産法人です。

### ◇ 3 - 3 環境にやさしい農業支援事業

達成度	① △ ② △
-----	------------

取り組みの概要	<目的・狙い> ・減農薬・減化学肥料農法に取り組む農業経営者の支援				
	<内容> 東京都や町田市農業協同組合と連携し、農業者が行う減農薬や減化学肥料などの環境対策を支援していきます。また市内畜産農家が生産した堆肥が、市内で消費されるよう支援していきます。				
	<実施主体> ・町田市（農業振興課） ・町田市農業協同組合 ・東京都				
指標	①東京都エコ農産物認証制度(※)参加農家戸数(累計) ②市内生産堆肥の流通量			策定時 (2012年度)	①－ ②305.75 t
				目標 (2018年度)	①50戸(累計) ②現状水準維持
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①14戸(累計) ②269.7 t	①17戸(累計) ②249.3 t	①19戸(累計) ②226.8 t	①35戸(累計) ②233.3 t	①44戸(累計) ②175.45 t
事業費	511千円	464千円	483千円	448千円	360千円
2018年度の取り組み	農業者が市内で生産された堆肥を購入するにあたって補助を実施しました。この制度を活用し、50人の農業者が175.45tの堆肥を使用しました。東京都エコ農産物認証を取得している農業者が堆肥を購入する場合は、補助額を50%上乗せした額(2,700円/t)とすることにより、東京都エコ農産物認証制度への参加促進を図り、9人の農業者が新たに認証を取得しました。				
5年間の総括	2014年度から2018年度の5年間で、44戸の東京都エコ農産物認証取得農業者に補助を行いました。これにより、化学肥料の減量を促進できたと考えられます。市内生産堆肥の流通量は、市内の堆肥生産農家が廃業したため、目標を達成することができませんでした。引き続き、環境にやさしい農業に取り組む農業者への支援を行うとともに、農業者へ東京都エコ農産物認証制度の加入の推進を図ります。				

※ 東京都エコ農産物認証制度とは、環境負荷の少ない生産技術を用いて、都が定めた農薬や化学肥料の使用基準から一定程度使用量を削減して栽培された農産物を認証する制度です。

### ◇ 3 - 4 経営環境整備支援事業

達成度	△
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・農業経営の近代化と合理化の促進				
	<内容> 農業者が収益性の高い農業を実現するために行う、経営の改善及び合理化を目指す事業に対し補助を行い、農業の近代化等を促進することにより持続的な農業経営に向けた支援を行います。				
	<実施主体> ・町田市（農業振興課）				
指標	事業実施件数	策定時 (2012年度)		9件	
		目標 (2018年度)		現状水準維持	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	21件	19件	13件	10件	8件
事業費	19,115千円	61,595千円	57,057千円	36,727千円	6,341千円
2018年度の取り組み	農業者の持続的な農業経営に向けた支援として、トラクターや管理機、野菜苗移植機といった農業用機械等の導入費用の一部を補助しました。しかし、2018年度は農業用ハウス等の大型設備の導入要望がなく、前年と比べて事業費が大きく減少しました。				
5年間の総括	2014年度から2018年度の5年間で71件の事業に対し補助を行ったことで、農業経営の改善及び農作業の効率化が進みました。 引き続き、持続的な農業経営に向け、生産効率向上のための施設や機械の導入に対して、東京都の補助なども活用しながら支援を行うとともに、農業者に制度を周知していきます。				

### ◇ 3 - 5 畜産事業者経営支援事業

達成度	△
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・良好な畜産環境整備の支援				
	<内容> 畜舎の衛生管理や家畜伝染病の予防など、持続的に畜産事業を営んでいく上で必要な事業に対する一定の補助を行っていきます。				
	<実施主体> ・町田市（農業振興課）				
指標	市内畜産事業農家数	策定時 (2012年度)		11戸	
		目標 (2018年度)		現状水準維持	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	11戸	11戸	7戸	6戸	7戸
事業費	1,177千円	490千円	514千円	567千円	486千円
2018年度の取り組み	<p>畜舎の衛生管理・家畜伝染病の予防接種等の費用について、市内の畜産農家7戸に補助金による支援を行いました。これにより、家畜伝染病の発生を抑えることができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜舎衛生管理事業 7件</li> <li>・家畜伝染病予防事業 2件</li> </ul>				
5年間の総括	<p>市内畜産事業農家の廃業により目標を達成することはできませんでしたが2014年度から2018年度の5年間で、42件の補助を行い、家畜伝染病の発生を0件に抑えることができました。</p> <p>引き続き、畜舎の衛生管理・家畜伝染病の予防等に要する経費を補助し、良好な畜産環境の整備を支援していきます。</p>				

# ◇ 3 - 6 農地利用集積円滑化事業 ☆

達成度	◎
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ 農業経営の規模拡大の促進 ・ 新規参入の促進 ・ 遊休農地の解消				
	<内容> 農業経営基盤強化促進法に基づき、農地を借りたい人を担い手バンクに、遊休農地を農地バンクに登録してマッチングを行い、市街化調整区域内の農地を新たな担い手にあっせんします。				
	<実施主体> ・ 町田市（農業振興課、農業委員会）				
指標	農地あっせん成立件数(累計)			策定時 (2012年度)	25件(累計)
				目標 (2018年度)	40件(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	68件(累計)	81件(累計)	86件(累計)	88件(累計)	95件(累計)
事業費	1,838千円	1,203千円	3,080千円	567千円	1,457千円
2018年度の取り組み	農地パトロールを行い、耕作状況が好ましくない農地について農業者に農地バンクへの登録を促すことで、新たに7件(9,353㎡)の農地あっせんを行いました。 農地バンクの登録面積約17.1haのうち、約16.5ha(約96%)が貸借されています。 そのほか、利用権設定された遊休農地の整備を支援しました。				
5年間の総括	新規就農希望者への支援策として、農地の利用権設定について、認定農業者と認定新規就農者間のみとしていた対象範囲を新規就農者まで拡大するなど、農地あっせん制度の見直しを行いました。着実に農地あっせんを実施してきたことで、遊休農地の解消につながっています。 また、農地あっせん事業にて貸借人が借り受けた農地について、整備費用に対する補助を行い、遊休農地の有効利用を推進しました。				

### ◇ 3 - 7 農を活かしたまちづくり推進事業

達成度 ① △  
② △

取り組みの概要	<目的・狙い> ・町田の農業と地場農畜産物のPR ・農を活かしたまちづくりと観光集客の拡大				
	<内容> 七国山地域において、景観作物の栽培やファーマーズセンター、ふるさと農具館の運営など農を活かした景観形成を進めていきます。				
	<実施主体> ・町田市（農業振興課）				
指標	①ファーマーズセンター来館者数 ②農具館来館者数	策定時 (2012年度)		①13,108人 ②29,743人	
		目標 (2018年度)		①14,000人 ②31,000人	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①11,722人 ②29,889人	①11,961人 ②29,351人	①11,148人 ②29,159人	①8,549人 ②27,204人	①8,273人 ②23,159人
事業費	20,836千円	19,096千円	19,286千円	18,513千円	19,055千円
2018年度の取り組み	七国山ファーマーズセンターでは、敷地内に咲くコスモスの開花情報をSNSでPRし、来客数増加に努めました。 ふるさと農具館では、七国山地域で収穫した菜種を使い、毎月1回油しぼりの実演を行いました。油しぼりの様子を、地域情報サイト「まちだけ。」に掲載しました。 ファーマーズセンター及びふるさと農具館の周辺では、菜の花とそばの花の栽培を行い、農ある景観を市民に楽しんでもらいました。				
5年間の総括	SNS等を活用し、菜の花やそばの開花情報、施設や施設で行うイベント等の情報の周知を行い、来館者数増加を図りましたが、来館者は減少傾向となりました。 指定管理者による自主事業の充実等を進め、来館者の増加を図ります。				

# ◇ 3 - 8 地場農畜産物直接販売推進事業

達成度 ◎

取り組みの概要	<目的・狙い>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業生産者と消費者の交流の促進</li> <li>・ 町田の農業と地場農畜産物のPR</li> <li>・ 地産地消の推進</li> </ul>				
	<内容>				
指標	市内の認定農業者が直接販売する「日曜朝市」と「市役所まち☆ベジ市(※)」を開催し、消費者と生産者の交流・情報交換を促進していきます。また、「まち☆ベジマップ(直売所マップ)」を通して町田市農業協同組合や生産者などが運営する直売所や直売イベントの積極的なPRも進め、地場農畜産物を市民の方が購入できる機会の拡充を図っていきます。				
	<実施主体>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認定農業者連絡協議会</li> <li>・ 町田市(農業振興課)</li> </ul>				
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	1,100人	1,100人	1,100人	1,698人	1,434人
事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	<p>市役所で行う「市役所まち☆ベジ市」を12回、教育センターで行う「日曜朝市」を14回開催しました。「日曜朝市」については、7月と12月に、特別朝市を開催し、くじ引き等のイベントを実施し生産者と消費者の交流を図りました。</p> <p>また、人通りが多い町田東急ツインズ前においても、町田産農産物の販売を2回行い、町田産農産物のPRにつなげました。そのほか、直売所等を掲載している「まち☆ベジマップ(直売所マップ)」を「市役所まち☆ベジ市」等で配布し、町田産農産物の購入促進に努めました。</p>				
5年間の総括	<p>「市役所まち☆ベジ市」や「日曜朝市」に参加する農業者が増えたことで、「市役所まち☆ベジ市」の来場者を増やすことができました。あわせて「まち☆ベジマップ(直売所マップ)」やSNS等で地場農畜産物の購入場所をPRしたことで、消費者と生産者の交流等をさらに広げることができました。</p>				

※ 「まち☆ベジ」とは、町田市内の農業者又は町田市内に農業経営の拠点がある農業者が生産記録等の管理のもとで生産した農産物(野菜・畜産・園芸等)のことです。地場農畜産物の認知度向上及びブランド化の推進を目的として、2011年にシンボルマークとネーミングを決めました。マークを使用できるのは、農業拠点を市内に置く農業経営者で、市から承認を受けた方と、マーク使用を承認された方の生産した地場農畜産物を販売したり、食材として使用している販売店や飲食店です。

～日曜朝市～  
 実施日時: 毎月第1日曜日 (7・12月は第1・第3日曜日の2回開催、1月は第2日曜日)  
 午前7時～午前8時 (冬季(12月～3月)は午前7時30分～午前8時30分)  
 開催場所: 町田市教育センター(木曾東)

～市役所まち☆ベジ市～  
 実施日時: 毎月第3日曜日 (休日の場合は翌開庁日)  
 午前11時～午後1時  
 開催場所: 町田市庁舎 正面玄関横

### ◇ 3 - 9 地場農畜産物学校給食利用促進事業

達成度	① ○ ② △
-----	------------

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消の推進</li> <li>・食育の推進</li> <li>・児童への新鮮で安心安全な食材の提供と地場農畜産物のPR</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>市内の農業者が生産した米、野菜、乳製品や卵などを学校給食に供給し、地産地消と食育を推進します。さらにその取り扱い量を増やせるよう補助事業を実施し、供給の安定化を進めていきます。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市（農業振興課、保健給食課、保健企画課）</li> <li>・町田市農業協同組合</li> </ul>				
指標	①地場農畜産物利用校数 ②学校給食食材出荷量		策定時 (2012年度)	①42校 ②25.29 t	
			目標 (2018年度)	①現状水準維持 ②50 t	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①42校 ②37 t	①42校 ②40 t	①41校 ②37 t	①41校 ②35 t	①42校 ②41 t
事業費	1,847千円	1,965千円	1,906千円	1,704千円	1,957千円
2018年度の取り組み	<p>認定農業者連絡協議会の総会など農業者が集まる会合や農業委員会だよりを通じて、学校給食へ生産物を供給できる農家を募りました。また、地場産の野菜の使用頻度が少ない学校の栄養士とその地区の農業者に呼びかけ、顔合わせの場を設定したことにより、利用校を1校増やすことができ、41tの地場産野菜を出荷することができました。</p> <p>市内全小学校の8月と1月の給食において「まち☆ベジ給食の日」を設定し、地場産の野菜と牛乳を使ったシチューを提供しました。</p>				
5年間の総括	<p>利用校数については目標を達成することが出来ましたが、食材出荷量については策定時より大幅に増加しているものの、目標としている50tには及びませんでした。</p> <p>今後、学校給食への地場農畜産物の安定供給を図るため更なる検討をしていきます。</p>				

～地場農畜産物を活用した学校給食の実施例～

- ・新米による米飯給食
- ・市内酪農家を作った飲むヨーグルト
- ・市内野菜農家を作った野菜を使ったメニュー

◇ 3 - 1 0

町田産農畜産物のブランド化推進事業 ☆

達成度	○
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・町田の農業と町田産農畜産物のPR				
	<内容> ・「まち☆ベジマップ(直売所マップ)」配布などのPR活動を行います。 ・販売店や飲食店への町田産農畜産物とまち☆ベジマークの使用を促進し、広く町田産農畜産物のPRを行います。				
	<実施主体> ・町田市(農業振興課)				
指標	まち☆ベジ取扱店舗数	策定時 (2012年度)		14店舗(累計)	
		目標 (2018年度)		30店舗(累計)	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	27店舗(累計)	36店舗(累計)	33店舗(累計)	33店舗(累計)	31店舗(累計)
事業費	1,884千円	1,231千円	1,400千円	1,329千円	2,239千円
2018年度の取り組み	<p>農業者や農業協同組合からの出荷情報などを元に町田産農産物を使用する飲食店に呼びかけを行い、新規登録のあった3件の「まち☆ベジグルメ店」をSNSで紹介しました。一方、5件の店舗が閉店したことで、2018年度末時点で合計31店舗となりました。</p> <p>町田産農産物をより多くの方に知っていただくため外部サイト「まちだけ。」内に農業に関するページを開設しました。その中で、農業者の直売所や「まち☆ベジグルメ店」に関する情報を180件発信しました。</p>				
5年間の総括	<p>町田産農産物を使用する飲食店等への呼びかけや、「まち☆ベジマップ」の配布などで広く町田産農畜産物のPRを行った結果、閉店など店舗数の減少要因もあるなかでも、目標としている「まち☆ベジ取扱店舗数」30店舗を超えることが出来ました。今後も多くの情報を発信するなど、飲食店へまち☆ベジをPRし、使用を促進します。</p>				

### ◇ 3 - 1 1 市民と農のふれあい推進事業 ☆

達成度 ① ○  
② △

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市民と農業のふれあいの促進 ・市民の農業に対する関心と理解の増進				
	<内容> 市民が農とふれあう場として市民農園を管理運営します。市内の市民農園や体験農園をまち☆ベジマップ(直売所マップ)等でPRします。また、市内農業の拠点施設としてアグリパークを開設します。アグリパークの基本計画を2014年度に策定し、2015年度に設計・工事を開始し、2016年度に部分開園を行います。				
	<実施主体> 町田市(農業振興課)				
指標	①市民農園の利用率 ②市民農園・体験農園の箇所数		策定時 (2012年度)	①100% ②17箇所	
			目標 (2018年度)	①100% ②20箇所	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①98% ②18箇所	②98% ②16箇所	①100% ②16箇所	①99% ②16箇所	①99% ②16箇所
事業費	7,389千円	3,630千円	1,884千円	2,656千円	3,353千円
2018年度の取り組み	市民農園の管理を適切に行うとともに、中途解約者が生じた際に速やかに利用者を募ることで、概ね100%に近い利用率を保つことができました。また、2018年度で利用期間の満了を迎える金森と三輪緑山の市民農園については、新たに利用者を募集しました。薬師池公園四季彩の杜西園ウェルカムゲートは2020年度に開園を予定しており、園内に設置する農産物の販売所について、直売所準備会を2回開催し、販売実施計画骨子を策定いたしました。				
5年間の総括	市民の農園の利用率については、概ね目標を達成することが出来ましたが、市民農園・体験農園の箇所数については未達のため、農業者が開設する市民農園について支援を行うなど、増園出来るよう取り組んでいきます。				

# ◇ 3 - 1 2 農業祭

達成度	① ○
	② ○

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田の農業と地場農畜産物のPR</li> <li>・農業者の営農技術の向上</li> </ul>					
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>市民が町田の農業に触れることのできるイベントとして開催し、市内農畜産物の品評会やPRを行います。また、営農技術競技会(畑で生育中の農産物を審査する立毛審査(※1))を通して農業者の営農技術の向上を図ります。</p>					
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市農業協同組合</li> <li>・町田市(農業振興課)</li> </ul>					
指標	①農業祭来場者数 ②品評会出品数		策定時 (2012年度)	①12,000人(町田シバヒロ会場のみ) ②520点	目標 (2018年度)	①15,000人(町田シバヒロ会場のみ) ②650点
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
達成状況	①1,600人(町田シバヒロ会場のみ) ②638点	①6,160人(町田シバヒロ会場のみ) ②614点	①5,550人(町田シバヒロ会場のみ) ②507点	①10,536人(町田シバヒロ会場のみ) ②533点	①16,020人(町田シバヒロ会場のみ) ②596点	
事業費	3,820千円	3,800千円	3,771千円	3,702千円	3,751千円	
2018年度の取り組み	11月10日(土)・11日(日)に原町田大通り及び町田シバヒロで開催した「2018キラリ☆まちだ祭～いい街・町田の農業祭&産業フェスティバル～」において、市内農畜産物の即売や野菜宝舟・野菜御輿・花で製作したまち☆ベジマークの展示、農産物品評会などを実施し、市内の農業や農産物をPRしました。農産物品評会では、野菜等の部で436点、植木等の部で160点の出品がありました。 また、6月から12月にかけて、ハウストマトなど6品目の立毛審査(※1)、椎茸のほだ場審査及び畜産共進会(※2)で合計80点の審査を行いました。					
5年間の総括	2014年度から2018年度の5年間で、農業祭の来場者数は合計39,866人となりました。また、品評会の出品数は合計2,888点となりました。シバヒロ会場の来場者数は年々増加しており、2017年度からは1万人を越えています。					

※1 立毛審査とは、畑やビニールハウスで行う、収穫・出荷前の審査です。作物の状態ではなく、畑の状態や栽培方法までが審査対象です。

※2 畜産共進会とは、より能力の高い家畜の生産により、畜産経営の安定化と消費者の食の安全・安心を推進するため、参加した家畜の改良成果を検証する大会です。

## 4. 「まちの魅力を高め、発信する」

• 推進事業 4-1 町田さくらまつり

---

• 推進事業 4-2 キラリ☆まちだ祭

---

• 推進事業 4-3 観光拠点づくり事業

---

• 推進事業 4-4 フットパス振興事業

---

• 推進事業 4-5 観光人材育成事業

---

• 推進事業 4-6 観光まちづくり協働事業

---

• 推進事業 4-7 シティセールス事業

---

• 推進事業 4-8 コンベンション誘致事業

---

# ◇ 4 - 1 町田さくらまつり ☆

達成度 ○

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内のさくらを楽しむ機会の提供 ・「町田のさくら」のブランド化				
	<内容> 多くの市民及び来訪客が「観る・巡る・集う・食べる」などの方法で町田のさくらを楽しめる環境を実現するため、さくらの開花時期に行われるお祭りやイベントとさくらの名所をネットワーク化し、町田ならではのさくらの楽しみ方を発信します。				
	<実施主体> ・町田さくらまつり実行委員会				
指標	町田さくらまつり来場者数			策定時 (2012年度)	0人(中止のため) *2011年度106,000人
				目標 (2018年度)	120,000人
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	84,000人	104,000人	54,000人	60,000人	117,000人
事業費	10,000千円	10,000千円	9,000千円	9,000千円	9,000千円
2018年度の取り組み	<p>2019年3月23日から4月7日までを「町田さくらまつりウィーク」として、恩田川、芹ヶ谷公園、尾根緑道でさくらまつりを開催するとともに、期間中に市内各所で開催されるお祭りやイベントなどと連携したPR活動を行いました。その結果、来場者数は昨年度より57,000人増え117,000人となりました。</p> <p>また、昨年度に引き続き、Instagramを活用した市民参加型のPRを行いました。桜の開花状況やイベントの写真を投稿してもらうことで、町田の桜を多くの方と共有することができました。</p> <p>そのほかに、さくらめぐりスタンプラリーを実施し、市内8ヶ所の見所エリアに設置したさくらスタンプのうち、3ヶ所のスタンプを集めた方には、抽選で町田市名産品の詰め合わせをプレゼントしました。Instagramの投稿数は約170件、さくらめぐりスタンプラリーの応募件数は約230件でした。</p> <p>さらに、「まちだOごと大作戦」関連事業として、4月7日に芹ヶ谷公園会場と尾根緑道会場で桜の植樹式を行いました。また、恩田川会場では、3月27・28日の夜間に川沿いの桜のライトアップを行いました。</p>				
5年間の総括	<p>目標としている来場者数には届きませんでした。2018年度は過去5年間で最大の来場者数となりました。今後も更なる来場者の増加を目指してPR等に努めます。また、新たな桜の植樹等による名所づくりにも取り組みます。</p>				

## ◇ 4-2 キラリ☆まちだ祭

達成度	① △ ② △
-----	------------

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活者と事業者・農業者との交流促進</li> <li>・市内の事業者の製品や商品及び農畜者の生産品のPR</li> <li>・事業者間及び事業者と農業者との交流・連携の促進</li> </ul>				
	<p>&lt;取り組み内容&gt;</p> <p>多くの方に市内の事業者の製品や商品及び農業者の生産品を見て、知って、味わっていただくイベントとして「キラリ☆まちだ祭」を実施していきます。今後も、時代の流れをくみとって、内容を見直しながら充実を図っていきます。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田商工会議所</li> <li>・町田市農業協同組合</li> <li>・町田市（農業振興課、農業委員会、産業政策課）</li> </ul>				
指標	①キラリ☆まちだ祭来場者数 ②出展者の販売促進効果実績件数(出展事業者からのアンケートによる)			策定時 (2012年度)	①95,000人 ②20件
				目標 (2018年度)	①150,000人 ②20件
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①86,000人 ②7件	①40,000人 ②3件	①107,000人 ②6件	①108,716人 ②8件	①130,450人 ②6件
事業費	4,000千円	4,500千円	3,900千円	4,000千円	4,000千円
2018年度の取り組み	<p>11月10日(土)、11日(日)に「2018キラリ☆まちだ祭～いい街・町田の農業祭&amp;産業フェスティバル～」を開催しました。当日は晴天のもと、13万人を超える来場者がありました。</p> <p>原町田大通り会場では、市内農業者の活動や農業の魅力を伝えるブース、市内商業事業者の飲食物販売を中心とした商業ブースを出店しました。また市内農畜産物生産者と飲食・商工業者が連携して開発した農商連携商品の販売を行い、地元の農畜産物や事業者のPRを行いました。町田シバヒロ会場では野菜・植木の品評会と即売会等を実施し、市内農産物の魅力発信を行いました。</p> <p>2018年度は初めて、回遊性向上企画「原町田七福神を探せ！」を実施し、各会場の回遊性向上とともに、来場者参加型のイベントとすることで、家族連れや若年層などを中心に、新規来場者の増加を図りました。</p> <p>販売促進効果実績件数については6件となり、2017年度から微減しました。</p>				
5年間の総括	<p>来場者数は目標の達成には至りませんでした。年々実施回数を重ねるごとに増加しています。しかしながら2015年度のように悪天候時は来場者数が大きく減少しており、天候が大きく左右する結果となりました。</p> <p>2017年度から実施している来場者アンケートの結果等から、催事自体の認知度が向上していることや、チラシやポスター等の広報関係に力を入れたことが来場者数の増加に結びついたと考えられます。</p> <p>また、出展者の販売促進効果実績件数も目標の達成には至りませんでした。出展者アンケートから、すぐに販売促進にはつながらないが、出展したことによるPR効果はあったとのお返事をいただきました。</p>				

# ◇ 4-3 観光拠点づくり事業

達成度 ◎

取り組みの概要	<目的・狙い>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田観光ブランドの向上</li> <li>・集客機能の強化</li> </ul>				
	<内容>				
	<p>市内の地域ごとの魅力を活かした、観光PRを展開します。また、各地域における来訪者の受入環境の整備をするため、観光交流センターなどの整備を進めます。</p>				
	<実施主体>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市（観光まちづくり課）</li> <li>・町田市観光コンベンション協会</li> </ul>				
指標	小野路宿里山交流館来館者数	策定時 (2012年度)		-	
		目標 (2018年度)		6,000人	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	36,140人	35,836人	36,007人	33,824人	32,143人
事業費	21,962千円	23,557千円	20,873千円	20,949千円	21,199千円
2018年度の取り組み	<p>小野路宿里山交流館では、小野路地域の歴史・自然・文化に関するイベント（うどん作り教室、野菜の収穫体験、野鳥観察会など）や土蔵での企画展（小野路のアートコンテストなど）を行いました。また、小野路宿寄席など建物の雰囲気合う趣向を凝らしたイベントも実施しました。さらに、指定管理者の自主事業として、地元産の野菜や工芸品等の販売、地元の食材を使った飲食の提供を行いました。</p> <p>相原地域においては、相原にぎわい創生プロジェクトが「まちだ〇ごと大作戦」に事業提案し、地域と地元大学が連携して相原地域の魅力を向上させる取り組み（『竹あかりの街“あいはら”』）を実施しました。</p>				
5年間の総括	<p>小野路宿里山交流館については、小野路地域の歴史・自然・文化に関するイベントや土蔵での企画展を実施した結果、毎年度の来館者が30,000人を超え、目標の6,000人を大幅に超過しました。また、地域団体や近隣市と連携したイベント（子ども工作教室や南多摩3市連携ガイドウォークツアーなど）も実施しました。</p> <p>相原地域については、2017年度に「あいはら“ワクワク”竹学校」(※)、2018年度に「竹あかりの街“あいはら”」(※)を地域関係者と連携して実施し、地域の活性化を図りました。</p>				

※ 「あいはら“ワクワク”竹学校」とは、2016年度にさがまちコンソーシアムが開催した「相原魅力づくりコンテスト」の入賞作品を提案した学生とともに具現化したイベントです。地元産の竹を使った遊具の制作やワークショップを実施しました。

※ 「竹あかりの街“あいはら”」とは、地元団体や地元大学生と連携してワークショップや竹講習会を開催し、地元産の竹を使ったオブジェや竹灯籠に明かりを灯す地域おこしイベントを相原駅西口ロータリーで実施しました。

## ◇ 4-4 フットパス振興事業

達成度	① ②	◎ △
-----	--------	--------

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ “フットパスのメッカ” としての町田ブランドの創出				
	<内容> 道標設置やガイドマップの作成など市内のフットパス(※)に関する環境を整備するとともに、フットパスに関する取り組みを行っている市内外の団体や地域との交流・連携を推進します。				
	<実施主体> ・ 町田市（観光まちづくり課） ・ 町田市観光コンベンション協会				
指標	①フットパスHP年間アクセス数 ②道標整備ルート数(累計)			策定時 (2012年度)	①3,800アクセス ②3ルート(累計)
				目標 (2018年度)	①5,000アクセス ②10ルート(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①7,063アクセス ②3ルート (累計)	①5,996アクセス ②3ルート (累計)	①8,071アクセス ②3ルート (累計)	①92,841アクセス ②3ルート (累計)	①20,367アクセス ②3ルート(累計)
事業費	1,522千円	904千円	463千円	423千円	460千円
2018年度の取り組み	日本フットパス協会を通じて、「全国フットパスの集い in 柴田」を行った宮城県柴田町や、フットパスの様々な取り組みを行っている全国の自治体・団体とフットパスの現状や課題、今後について情報交換を行いました。 また、相原地域のフットパスルートを案内するため、道標を2基新設しました。				
5年間の総括	フットパスHP年間アクセス数については、目標を達成しました。また、日本フットパス協会を通じて、市内外の団体と情報交換を行い、交流・連携を推進しました。 道標整備については、新規ルートの整備は行わず、すでに一部整備を行っている3ルートについて、道標を充実させました。				

※ フットパスとは、「森林や田園地帯、古い街道など、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【foot】ができる小径(こみち)【path】」のことです。イギリスが発祥の地とされており、日本各地においても、市民団体・自治体を中心に整備が進められています。現在、町田市では、35のフットパスルートがあります。

※ 指標①のフットパスHP年間アクセス数については、HPのリニューアルに伴い、2017年度からカウント方法が変更となりました。

※ 道標整備ルート数の3ルートは、「小野神社から小野路界限コース」「小山田から常盤・小山コース」「相原から七国峠コース」です。

# ◇ 4 - 5 観光人材育成事業

達成度	◎
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来訪者と地域の人との交流促進</li> <li>・ 地域の人材の活躍の場の拡充</li> </ul>				
	<内容>				
	<p>市民自らの手で市民及び外来のお客様に町田市内の観光スポットなどをガイドする「まちだ観光案内人」を養成し、町田市観光コンベンション協会や旅行会社などが主催するツアーに、ガイドとして従事していただきます。</p>				
	<実施主体>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田市観光コンベンション協会</li> </ul>				
指標	ボランティアガイド派遣数			策定時 (2012年度)	61回
				目標 (2018年度)	70回
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	82回	76回	74回	72回	85回
事業費	24千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	<p>2018年度は、「まちだ観光案内人」が町田を紹介するツアーで、ガイドとして85回従事しました。</p> <p>また、東京都と連携して観光コンベンション協会職員向けの観光人材育成研修「まち歩きツアーの作り方」（京都の住民自らがガイドする人気ツアー「まいまい京都」の主宰者・以倉氏を講師とした研修）を実施し、地域の方々の協力のもと、商店主が見た地域の歴史や昔ながらの印刷技術といった「人」に着目した町田駅周辺の観光資源を発掘しました。</p>				
5年間の総括	<p>「まちだ観光案内人」によるガイドツアーを5年間継続して実施し、派遣数の目標も達成しました。</p> <p>併せて、案内人の意識の啓発や、案内人同士の情報交換を行いました。</p> <p>さらに、市内の観光資源の発掘や、農業体験事業を実施している農業従事者等と連携し、新たなツアーを企画・実施し、観光案内人の活躍の場を増やしました。</p> <p>また、「まちだ観光案内人」以外に市内の魅力を案内するガイドについても研究を始めました。</p>				

# ◇ 4-6 観光まちづくり協働事業

達成度	◎
-----	---

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域団体や市民の観光への参加促進</li> <li>・ 地域連携による観光振興の促進</li> <li>・ 観光を通じた事業機会の拡充</li> </ul>				
	<p>&lt;取り組み内容&gt;</p> <p>市民・事業者・団体などとの連携を促進し、それぞれが連携した観光資源の発掘、観光プログラムの立案、観光行事の実施、観光PRなどの取り組みを促進します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田市観光コンベンション協会</li> <li>・ 町田市（観光まちづくり課）</li> </ul>				
指標	観光事業への参加団体・事業者数			策定時 (2012年度)	10者(団体)
				目標 (2018年度)	15者(団体)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	16者(団体)	18者(団体)	25者(団体)	36者(団体)	19者(団体)
事業費	50,738千円	49,548千円	49,917千円	55,873千円	54,009千円
2018年度の取り組み	<p>市民、団体及び事業者と連携し、町田さくらまつりや、町田時代祭りなどの観光イベントを実施しました。</p> <p>また、多摩市や稲城市、昭島市、八王子市などと連携し、ウォーキングイベントやシンポジウム、観光協会間での意見交換などを実施しました。</p> <p>さらに、国際交流センターのボランティアと連携し、外国人へのおもてなし（英語でのイベント案内等）を実施しました。</p>				
5年間の総括	<p>三市連携ウォーキングや多言語版観光マップの作成、町田さくらまつりへの出展を行い、観光PRを実施しました。その結果、観光事業への参加団体や事業者数も増え、目標を達成いたしました。</p> <p>多言語版のマップ作成では、国際交流センターのボランティアと連携しました。</p> <p>また、観光コンベンション協会内部の運営体制の見直しを行うために、他の観光協会にヒアリングを行いました。</p>				

# ◇ 4-7 シティセールス事業 ☆

達成度	△
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・町田の魅力、知名度向上				
	<内容> 町田の魅力を全国に発信するため、市外イベントへの出展、旅行会社等への広報活動、映画やドラマのロケ支援をはじめとする各種PR活動を行っています。				
	<実施主体> ・町田市(観光まちづくり課) ・町田市観光コンベンション協会				
指標	町田市観光関連HPアクセス数			策定時 (2012年度)	1,200,000アクセス
				目標 (2018年度)	1,500,000アクセス
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	1,532,768 アクセス	1,850,642 アクセス	1,422,362 アクセス	1,763,942 アクセス	1,227,027 アクセス
事業費	8,061千円	6,031千円	4,037千円	3,995千円	530千円
2018年度の取り組み	<p>ホームページをより多くの方に見ていただくための多言語化やスマートフォン・タブレット端末に対応するマルチデバイス化、地域メディアのホームページやバナーで相互にリンクすることを行いました。</p> <p>また、台湾・香港在住者向けの繁体字語Facebook、観光コンベンション協会や町田時代祭りのTwitter、町田さくらまつりのInstagramなど、SNS媒体を中心とした情報発信を行いました。</p> <p>さらに、シティセールス活動として、JRA町田特別レース、パラバドミントン国際大会、ふるさと祭り東京2019など集客力の多いイベントに出展して町田市の観光PRを行いました。</p>				
5年間の総括	<p>2017年12月にホームページのリニューアルを行い、カウント方法が変更になったため、2018年度は目標未達成となりましたが、2017年度以前のアクセス数については、上昇傾向でした。</p> <p>また、町田の魅力発信のため、市内外のイベントへの出展、旅行会社等への広報活動、映画やドラマのロケ支援などを行いました。</p> <p>さらに、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた町田市の取り組みやキャンプ情報などを、ホームページやSNSを使って情報発信しました。</p>				

※ 指標の町田市観光関連HP年間アクセス数については、ホームページのリニューアルに伴い、2017年12月からカウント方法が変更となりました。

# ◇ 4 - 8 コンベンション誘致事業

達成度	① △ ② △
-----	------------

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内の集客力拡大と地域経済の活性化				
	<内容> 規模の大きい会議やコンクール、スポーツ大会などのコンベンション（※）の誘致活動を展開するとともに、チケット販売代行や食事・宿泊手配やアフターコンベンションの提案などの主催者の支援を行っていきます。				
	<実施主体> ・町田市観光コンベンション協会				
指標	①コンベンションの新規誘致数(累計) ②主催者の支援事業実施数			策定時 (2012年度)	①0件(累計) ②3件
				目標 (2018年度)	①3件(累計) ②5件
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①0件(累計) ②2件	①0件(累計) ②3件	①0件(累計) ②1件	①0件(累計) ②1件	①0件(累計) ②1件
事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	<p>コンベンションの新規誘致はできませんでしたが、会議研修や展示会などのビジネスイベントであるMICEの誘致・開催推進に取り組んでいる八王子市へのヒアリングを行いました。</p> <p>さらに、MICE事業に先進的に取り組んでいる事業者を招いて、先進事例と町田市のコンベンション事業の可能性についてレクチャーしていただきました。</p> <p>また、町田サッカー協会主催のドリームサッカーin町田にチケット・チラシ・ポスターの配布や出店とりまとめ等の支援活動を行いました。</p>				
5年間の総括	<p>コンベンションの新規誘致はできなかつたため、目標は達成できませんでしたが、コンベンション誘致に向けて、町田市で開催されている全国規模のコンベンションの開催状況（開催時期、参加者数、移動手段など）を調査しました。</p> <p>今後は、観光コンベンション協会が、コンベンション主催団体等への支援組織の立ち上げや支援プログラムの整備を行い、市内でのコンベンション開催を推進していきます。</p>				

※ コンベンションとは、大勢の人が一定の目的を持って集まる集会や催しのことです。学術会議などの規模の大きな会議のほか、全国規模のコンクールやスポーツ大会などもコンベンションといえます。

## 5. 「事業者が活発に活動できる環境をつくる」

・推進事業 5-1 起業・創業支援事業

---

・推進事業 5-2 企業誘致事業

---

・推進事業 5-3 経営安定支援事業

---

・推進事業 5-4 中小企業支援ネットワーク事業

---

・推進事業 5-5 リスクマネジメント推進事業

---

・推進事業 5-6 中小企業融資事業

---

・推進事業 5-7 小規模事業者経営改善資金融資事業

---

・推進事業 5-8 商工業者後継者支援事業

---

・推進事業 5-9 技能功労者・永年勤続従業員表彰事業

---

・推進事業 5-10 地元企業就職促進事業

---

・推進事業 5-11 若年者雇用促進事業

---

・推進事業 5-12 キャリア形成支援事業

---

・推進事業 5-13 経営者・従業員スキルアップ支援事業

---

・推進事業 5-14 中小企業退職金共済支援事業

---

・推進事業 5-15 従業員福利厚生事業

---

・推進事業 5-16 ワーク・ライフ・バランス推進事業

---

・推進事業 5-17 従業員支援事業

---

# ◇ 5 - 1 起業・創業支援事業

達成度 ①○ ②○  
③△

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内既存企業の事業機会の拡大				
	<内容> 町田新産業創造センター(※)の2階入居事業者への支援のほか、入居事業者以外の方からの起業・創業に関する個別相談への対応や起業・創業に関するセミナーを開催します。また、空き店舗や通行量調査等の情報提供による支援を行います。				
	<実施主体> ・(株)町田新産業創造センター ・町田商工会議所				
指標	①町田新産業創造センター2階入居率 ②セミナー開催数 ③町田新産業創造センター入居者から株式 上場企業の創出(累計)			策定時 (2012年度)	①- ②2回 ③-
				目標 (2018年度)	①85% ②2回 ③1社(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①95% ②6回 ③0社(累計)	①100% ②6回 ③0社(累計)	①100% ②6回 ③0社(累計)	①100% ②10回 ③0社(累計)	①100% ②9回 ③0社(累計)
事業費	31,184千円	30,095千円	29,978千円	30,000千円	15,815千円
2018年度の取り組み	町田新産業創造センター2階入居率は、常駐のインキュベーションマネージャーによる支援を引き続き行ったことで、入居率100%を維持しました。セミナーは、9月に町田商工会議所にて「創業スクール」を9回(昼の部:3回・18名参加、夜の部:6回・33名参加)にわたって開催し、目標値を上回りました。創業に関する基礎的な知識について集中的に講義を行い、終了後には個別の相談会も実施しました。株式上場企業は創出できませんでしたが、「町田創業プロジェクト」の一環である「まちだ女性創業スクール」においては、前年度に引き続き全国創業スクール選手権にて「創業スクール10選」に選出されました。				
5年間の総括	2014年度から産業競争力強化法に基づき、「町田創業プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトを通じて、セミナーや相談会などの創業者支援を推進したことにより、町田新産業創造センター2階入居率、町田商工会議所でのセミナー開催数は目標を達成しました。入居者の売上高は順調に増加していますが、入居者から株式上場企業は創出されませんでした。				

※ 町田新産業創造センターとは、2013年4月に旧中町第三庁舎を改修し整備した創業支援施設です。施設には、カフェ、イベントスペース、創業支援のためのフロア、賃貸オフィス用のフロアがあります。意欲的な成長を目指す事業者にも多面的な事業活動に関わる支援を行うことで、全国的に活躍できる独創的・個性的な企業の創出を目指し、町田市、町田商工会議所、(株)八千代銀行が出資して設立した(株)町田新産業創造センターが運営します。(株)町田新産業創造センターは、事業者の起業・創業の支援、企業支援を行い、市内経済の活性化を図ります。

## ◇ 5 - 2 企業誘致事業

達成度	① △
	② ○

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内既存企業の事業機会の拡大				
	<内容> 企業等立地促進地区内(※)に事業所を新設し、又は増設する企業及び個人並びに企業及び個人が事業所を新設し、又は増設するための土地若しくは家屋を譲渡若しくは賃貸した者に対し、奨励金を支払うことにより、企業の誘致を行います。				
	<実施主体> 町田市（産業政策課）				
指標	①オフィス誘致件数(累計)		策定時 (2012年度)		①-
	②工場誘致件数(累計)		目標 (2018年度)		②- ①15件(累計) ②1件(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①1件(累計) ②0件(累計)	①2件(累計) ②0件(累計)	①2件(累計) ②1件(累計)	①3件(累計) ②1件(累計)	①3件(累計) ②1件(累計)
事業費	4,988千円	2,200千円	500千円	2,783千円	3,487千円
2018年度の取り組み	2016年度(①オフィス誘致)及び2017年度(②工場誘致)に奨励金対象企業として指定をした2社に対し、2017年度に引き続き奨励金を交付しました。 新規の市内立地については、事業者から数件の問い合わせを受けましたが、要望の多い大規模な土地を案内することが難しく、新たな企業の指定はありませんでした。				
5年間の総括	町田市に進出するメリットや誘致実績を、ホームページやパンフレット等を通じて発信しました。また、2016年10月に、より実効性のある制度への改正を行い、町田市の特性を活かした企業誘致の活動を進めました。 その結果、指標②工場誘致件数は目標を達成しましたが、指標①オフィス誘致件数については、事業者が希望する条件に合った物件等を紹介することが難しく、目標に届きませんでした。				

※ 企業等立地促進地区は、2016年10月に廃止しました。

# ◇ 5 - 3 経営安定支援事業

達成度 ①○ ②△  
③○

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内既存企業の経営支援 ・事業機会の拡大				
	<内容> 事業者からの各種個別相談への対応や事業者の経営を支援するためのセミナーの開催や情報の提供を行います。				
	<実施主体> ・町田商工会議所 ・(株)町田新産業創造センター				
指標	①町田商工会議所企業支援部における相談・指導件数 ②町田新産業創造センターにおける相談・指導件数 ③セミナーの参加者数	策定時 (2012年度)		①3,221件 ②— ③824人	
		目標 (2018年度)		①現状水準維持 ②500件 ③現状水準維持	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①2,999件 ②246件 ③854人	①2,902件 ②223件 ③923人	①3,233件 ②270件 ③921人	①3,347件 ②351件 ③875人	①3,076件 ②398件 ③832人
事業費	14,130千円	14,341千円	13,000千円	14,400千円	14,400千円
2018年度の取り組み	町田商工会議所では、市内事業者に対して経営指導員（9人）、記帳相談員（1人）が巡回や窓口での相談により経営支援情報を提供し、経営改善普及事業を推進し、3,076件の相談・指導を行いました。 町田新産業創造センターでは、金融機関や町田商工会議所と連携して情報収集に努め、町田新産業創造センター入居者、市内の創業者を中心に、各種セミナー・相談会等を通じて、適切かつ早期の経営支援を実施しました。これにより、相談・指導件数は2017年度から47件増え、398件となりました。 また、経営に関する各種セミナー（集団・個別）を、46回開催し、832人の参加がありました。				
5年間の総括	町田商工会議所では、経営改善普及事業と事業者が求めるセミナー内容の企画立案を推進しました。これにより、①③については概ね策定時の水準を維持しました。 また、町田新産業創造センターでは、適切かつ早期の経営支援を継続して実施したことで、5年間で相談・支援件数は大きく増加しましたが、目標は達成できませんでした。				

◇ 5 - 4 中小企業支援ネットワーク事業 ☆ 達成度 ◎

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ 中小企業の経営課題の解決				
	<内容> ITシステムに構築した専門家データベースから、中小企業の経営課題・相談ニーズに応じた専門家を派遣し、新たなビジネスの創造や経営改革等を支援します。				
	<実施主体> ・ 町田商工会議所 ・ (株)町田新産業創造センター				
指標	専門家派遣件数			策定時 (2012年度) 目標 (2018年度)	20件 100件
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	53件	44件	72件	89件	224件
事業費	30千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	<p>国や都の各種中小企業支援施策を活用して専門家等を派遣し、企業ごとに経営課題を明確化しながら個別支援を実施しました。また、2018年4月に町田商工会議所内に「多摩ビジネスサポートセンター」が設置されたことにより、専門家派遣件数は224件となり、大幅に件数が伸びました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業庁の中小企業・小規模事業者の支援ポータルサイト「ミラサポ」を活用した支援（10件）</li> <li>・ 東京都の補助金制度「中小企業活力向上プロジェクト」を活用した支援（経営診断支援61件、短期的課題改善支援21件、中長期課題解決支援7件）</li> <li>・ 「多摩ビジネスサポートセンター」を活用した支援（123件）</li> <li>・ 東京都商工会連合会の専門家派遣制度「エキスパートバンク」を活用した支援（2件）</li> </ul>				
5年間の総括	<p>国や都の各種中小企業支援施策を活用し企業ごとに経営課題を明確化し、課題解決に向け個別支援を実施しました。また、2018年4月に町田商工会議所内に「多摩ビジネスサポートセンター」が設置されたことを活かし、最終年度は、事業承継課題を中心に市内だけでなく多摩地域全域の広範囲の支援を実施したことで、支援件数も大幅に増加しました。</p>				

## ◇5-5 リスクマネジメント推進事業

達成度	① -
	② -

取り組みの概要	<目的・狙い> ・リスクマネジメント(※)推進の支援				
	<内容> 事業継続計画(BCP)の作成支援やセミナーの開催、ホームページによる「eラーニング講座」や情報提供を行います。				
	<実施主体> ・町田商工会議所				
指標	①セミナーの開催数(累計) ②eラーニング講座の受講者数(累計)			策定時 (2012年度)	①0件(累計) ②0人(累計)
				目標 (2018年度)	①5件(累計) ②50人(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①2件(累計) ②0人(累計)	①未実施 ②未実施	①未実施 ②未実施	①未実施 ②未実施	①未実施 ②未実施
事業費	140千円	-	-	-	-
2018年度の取り組み	セミナーやeラーニング講座は、受講者やアクセス数の減少が見られたため同事業のニーズの減少を受けて開催しませんでした。 危機管理に強い中小企業と地域社会をつくるため、事業継続計画(BCP)作成の重要性や必要性に関してホームページ等を通じての情報発信や、商工会議所から事業者に対して個別対応を行いました。				
5年間の総括	事業継続計画(BCP)は必要であるものの、事業者ニーズが減少しているため、2015年度からはセミナーや「eラーニング講座」ではなく、個別対応に切り替えました。				

※ リスクマネジメントとは、自然災害や火災、人的妨害、経営者死亡等の危機発生に対して、企業存続のために備えておくべき事業継続計画(BCP)の作成などをいいます。

# ◇ 5 - 6 中小企業融資事業

達成度 ○

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業の経営安定化</li> </ul>				
	<p>&lt;取り組み内容&gt;</p> <p>市内の中小企業者が、金融機関から運転資金、設備資金などの融資を受ける際の利子および信用保証料の一部を補助します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田市（産業政策課）</li> </ul>				
指標	融資申込件数			策定時 (2012年度) 533件  目標 (2018年度) 現状水準維持	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	451件	580件	602件	527件	538件
事業費	129,123千円	131,434千円	124,640千円	130,753千円	124,186千円
2018年度の取り組み	<p>市内金融機関から融資を受けた事業者に対し、利子の一部を補助しました。創業に関する融資は2018年4月に制度改正を行い、従来の「開業資金」を「創業資金」と名称を変更し、創業後1年未満としていた利用要件を創業後5年未満に拡大、貸付利率を引き下げました。このことにより「創業資金」の申込件数が2017年度の23件から2018年度は45件と約2倍の件数となったことが一因となり、申込件数が増加しました。</p>				
5年間の総括	<p>金融を取り巻く環境の変化や事業者のニーズに合わせて、制度の見直しと更新を行ってきました。2017年7月に東京信用保証協会の保証を必須の条件とする制度改正を行った際には、融資申込件数が大きく減少しましたが、概ね策定時の水準を上回りました。</p>				

# ◇ 5 - 7 小規模事業者経営改善資金融資事業

達成度 △

取り組みの概要	<目的・狙い> ・小規模事業者の経営改善の促進				
	<取り組み内容> 市内の小規模事業者が、商工会議所の経営指導を受け、その推薦に基づき（株）日本政策金融公庫から経営改善の資金を無担保・無保証人・低利で融資を受ける際の利子の一部を補助します。				
	<実施主体> ・町田商工会議所 ・町田市（産業政策課）				
指標	融資推薦件数			策定時 (2012年度)	112件
				目標 (2018年度)	現状水準維持
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	89件	88件	109件	109件	100件
事業費	10,161千円	11,533千円	12,832千円	12,175千円	10,629千円
2018年度の取り組み	町田商工会議所において、小規模事業者経営改善資金審査会を19回開催し、町田商工会議所の経営指導員が担当した融資案件100件、金額6億8,120万円について、（株）日本政策金融公庫に推薦しました。100件のうち72件について利子の補助を行いました。 2ヶ月に1回の情報誌へのチラシ折込、年1回のハガキ送付等の継続的なPRを実施しましたが、2017年度から融資件数は減少しています。				
5年間の総括	運転資金での利用について、一度利用した後2年間は利用が出来なくなるよう2015年に変更したことで、2017年度、2018年度は、一時的に件数が減少しました。 5年間で小規模事業者経営改善資金審査会を91回開催し、案件487件、金額32億1,710万円の推薦、そのうち438件、5,733万円の利子補助を行いました。				

# ◇ 5 - 8 商工業者後継者支援事業

達成度 △

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ 商工業者の後継者の育成、後継者確保の支援				
	<内容> 市内事業者の後継者向けのセミナーや勉強会などを実施し、後継者の事業活動を支援していくとともに、後継者確保が困難な事業者の事業継続の支援を行っていきます。				
	<実施主体> ・ 町田商工会議所 ・ (株)町田新産業創造センター ・ 町田市（産業政策課）				
指標	後継者育成セミナーへの参加者数			策定時 (2012年度) 目標 (2018年度)	133人 現状水準維持
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	101人	119人	82人	150人	118人
事業費	230千円	150千円	200千円	150千円	120千円
2018年度の取り組み	<p>町田商工会議所、町田青年会議所、町田法人会青年部が共同で組織する「MachiBizプロジェクト」の枠組みを通じ、若手経営者や後継者の育成を目的とした講演会・交流会を、2018年11月21日に実施し、118名の方に参加いただきました。</p> <p>第1部 「MachiBiz2018 夢ふくらむ町田プロジェクト」（参加者：118名） 基調講演：服部 彰治氏（札幌大通まちづくり株式会社 取締役統括部長） 内 容：①他地域の歩行者天国導入事例 ②原町田大通りを歩行者天国にすることでの地域の発展と経済効果についてなど</p> <p>第2部 名刺交換会（参加者：89名） 内 容：団体紹介のあと、参加者同士での名刺交換および交流を深めました。</p>				
5年間の総括	目標未達となりましたが、セミナーへの参加人数は安定して100名程度となっており、継続的に参加者を集めることができました。セミナー等を継続していくことで参画者同士のつながりを強固にし、後継者確保や事業継続に向けた支援を行いました。				

# ◇ 5 - 9 技能功労者・永年勤続従業員表彰事業

達成度 ① ○  
② △

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業人の技能・技術の研鑽促進</li> <li>・ 市内事業所における従業員の定着促進</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>永く同一の職業に従事し、技能及び技術の鍛錬並びに後進の指導育成に努めた技能功労者及び市内の同一事業所に永年にわたり勤務している永年勤続従業員の方の功績を称え、表彰します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田商工会議所</li> <li>・ 町田市（産業政策課）</li> </ul>				
指標	①技能功労者表彰者数 ②永年勤続従業員表彰者数			策定時 (2012年度) 目標 (2018年度)	①16人 ②81人 ①20人 ②100人
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①5人 ②79人	①14人 ②72人	①5人 ②94人	①11人 ②59人	①21人 ②70人
事業費	110千円	86千円	82千円	86千円	100千円
2018年度の取り組み	2月13日に技能功労者・永年勤続従業員表彰式を行いました。技能功労者表彰者数は、2017年度と比較して倍増の21人となりました。永年勤続従業員表彰者数は、11人増加の70人（勤続年数30年以上：10人、20年以上：18人、10年以上：42人）となりました。				
5年間の総括	技能功労者表彰者数は、対象職種の一部見直し（内装職の追加）や推薦期間を長く設けたことなどにより、多くの推薦があり目標を達成することができました。しかし、永年勤続従業員表彰者数は、同一事業所における勤続年数が減少している傾向もあり、目標を達成することができませんでした。 会社や事業者だけでなく、働く人にとっても町田市が「心地よいまち」となれるように、市の産業発展に尽力された方への表彰を今後も継続していきます。				

# ◇ 5 - 1 0 地元企業就職促進事業

達成度 ①- ②-  
③- ④-

取り組みの概要	<目的・狙い> ・市内事業者の人材確保				
	<内容> 市内企業合同の就職フェアを開催し、就職活動者と市内の求人企業とのマッチングを進めていきます。また、新卒者のほか、中途採用も対象に広げていきます。特定業種に絞った就職フェアなども開催し、より多くの求職者と求人企業とのマッチングの機会の拡大を図っていきます。				
	<実施主体> ・町田商工会議所				
指標	①就職フェア来場者数 ②就職フェアでの相談件数 ③就職フェア出展企業数 ④就職フェアを通じた就職件数	策定時 (2012年度)		①103人 ②105件 ③18社 ④13件	
		目標 (2018年度)		①～④現状水準維持	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①36人 ②82件 ③16社 ④5件	未実施	未実施	未実施	未実施
事業費	110千円	-	-	-	-
2018年度の取り組み	就職フェアへの出展を希望する市内事業者が減少傾向にあったため、2015年度に中止しました。				
5年間の総括	ここ数年は中小企業の人材不足が社会的な課題となっていますが、広域での開催にニーズがあるため、2015年度以降就職フェアは実施しませんでした。市内企業合同の就職フェアの開催にかわり、東京商工会議所主催の同フェアを、必要とする事業所へ周知するなどして、ニーズに応じた取り組みを行いました。				

# ◇ 5 - 1 1 若年者雇用促進事業 ☆

達成度	-
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・人材の発掘				
	<内容> 若年者(※)を対象とする国の「トライアル雇用奨励金」制度を利用した事業主が、国制度終了後、一定期間の雇用を継続した場合に、町田市でも奨励金を交付し、市内在住の若年者の雇用促進を図ります。				
	<実施主体> ・町田市（産業政策課）				
指標	奨励金交付件数			策定時 (2012年度)	-
				目標 (2018年度)	50件
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	0件	未実施	未実施	未実施	未実施
事業費	0千円	-	-	-	-
2018年度の取り組み	トライアル雇用奨励金制度の終了とともに、一定の若年者の雇用促進が図られたため、2015年度をもって終了しました。				
5年間の総括	同上。				

※ 若年者とは、45歳未満の者をいいます。

# ◇5-12 キャリア形成支援事業

達成度 ① △  
② ◎

取り組みの概要	<目的・狙い> ・求職者の職業能力の形成 ・市内事業者の人材確保				
	<内容> ジョブ・カード(※1)の普及・促進を進め、求職者の職業能力の向上と能力を活かした就業機会の拡大を図ります。また、そうした取り組みが市内企業の人材確保につながるよう、市内企業がジョブ・カードを活用する際の支援を行っていきます。				
	<実施主体> ・町田商工会議所				
指標	①ジョブ・カード推進協力企業数(※2) ②ジョブ・カードの発行件数			策定時 (2012年度)	①46社 ②8件
				目標 (2018年度)	①現状水準維持 ②現状水準維持
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①62社 ②23件	①60社 ②52件	①60社 ②58件	①30社 ②28件	①30社 ②25件
事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	町田商工会議所では、町田ジョブ・カードサポートセンターとして、新たに25件ジョブ・カードを発行し、正社員として働いた経験が少ない非正規雇用労働者等の求職者と求人企業のマッチングを行いました。また、求職者の正社員としての雇用促進を図ることを目的に、ジョブ・カード推進協力企業30社において実践的な職業訓練を推進するためのプログラムの作成及び訓練に対する助成金の申請支援を行いました。 さらに、協力企業の開拓、訓練プログラムの作成支援、キャリアアップ助成金の申請支援、キャリアコンサルティングなどの支援事業を行いました。				
5年間の総括	ジョブ・カードの普及・推進をし、求職者の職業能力の向上と能力を活かした就業機会の拡大を図り、「②ジョブ・カードの発行件数」について、目標を達成しました。「①ジョブ・カード推進協力企業数」は協力企業数を増やすのではなく、人材確保に関する支援内容を充実させたため、企業数として未達となりました。				

- ※1 ジョブ・カードとは、労働者のキャリア、資格、教育訓練などを記録し、職業能力証明書として活用できるカードです。非正規雇用労働者などの就労促進を図る目的で厚生労働省が推進しています。町田市でも2008年に町田商工会議所に、「町田ジョブ・カードサポートセンター」が置かれました。
- ※2 ジョブ・カード推進協力企業とは、採用しようとする人を想定した訓練計画を作成し、ジョブ・カードを制度を利用した求職者に対して職業訓練(OTJ及び座学)を実施する企業です。

◇ 5 - 1 3 経営者・従業員スキルアップ支援事業 ☆

達成度	△
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・経営者の資質向上 ・従業員の資質向上 ・企業力の増進				
	<内容> 自社内での研修の困難な事業者に向け、新入社員研修・リーダー研修・経営者セミナー等を実施します。				
	<実施主体> ・町田商工会議所				
指標	セミナー参加者数			策定時 (2012年度)	40人
				目標 (2018年度)	現状水準維持
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	23人	18人	29人	29人	17人
事業費	60千円	219千円	0千円	0千円	74千円
2018年度の取り組み	4月12日(木)、17日(火)の2日間、新入社員・若手社員向けにビジネスマナーや電話応対等についての講習を行い、17名の参加がありました。 ※経営者セミナーは「5-3 経営安定支援事業」の枠組みの中で実施しました。				
5年間の総括	策定時より参加人数は減少しているものの、毎年20名程度の参加がありました。小規模・中小企業への新入社員採用が減少したことでセミナーへの参加人数が減少していますが、人材育成意欲の高い事業者に毎年応募いただくことで、継続的に小規模事業者の従業員のスキルアップを支援できました。				

# ◇ 5 - 1 4 中小企業退職金共済支援事業

達成度	①-	②-
	③-	

取り組みの概要	<目的・狙い> ・ 中小企業の経営安定化				
	<内容> 退職金共済に加入する市内中小企業経営者や建設事業主の共済掛金負担分の一部を補助します。				
	<実施主体> ・ 町田市（産業政策課） ・ 町田商工会議所				
指標	退職金共済掛金補助事業所数 ① 中小企業退職金共済掛金 ② 建設業退職金共済掛金 ③ 特定退職金共済掛金			策定時 (2012年度)	①136事業所 ②1事業所 ③18事業所
				目標 (2018年度)	①②③現状水準維持
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①111事業所 ②1事業所 ③18事業所	①119事業所 ②1事業所 ③16事業所	-	-	-
事業費	2,290千円	2,400千円	-	-	-
2018年度の取り組み	中小企業退職金共済の加入者数は増加傾向にあり、一定の普及が図られたため、2015年度をもって補助制度を終了しました。				
5年間の総括	同上。				

# ◇ 5 - 1 5 従業員福利厚生事業

達成度	△
-----	---

取り組みの概要	<目的・狙い> ・従業員の福祉の向上				
	<内容> 市内の中小企業に勤務する従業員に対し、福利厚生事業を実施します。				
	<実施主体> ・一般財団法人町田市勤労者福祉サービスセンター				
指標	会報誌「さるびあタウン」発行部数			策定時 (2012年度)	30,800部
				目標 (2018年度)	42,800部
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	30,000部	37,800部	37,950部	37,950部	37,950部
事業費	23,000千円	22,000千円	22,000千円	22,000千円	22,000千円
2018年度の取り組み	<p>一般財団法人町田市勤労者福祉サービスセンターでは、中小企業の勤労者等の福利厚生の充実を図るため、37,950部の会報誌を発行し、給付やレクリエーション、セミナー等の各種福利厚生事業の利用促進を図りました。</p> <p>会員を対象としたアンケートを実施し、より満足度のサービスを提供できるよう状況の把握を行い、2019年度事業へ反映しました（主な意見は行楽施設の利用補助額の増額希望）。また、会員増加のため、償却資産の郵送用封筒の裏面に広告を掲載しました。</p>				
5年間の総括	<p>会員数が減少傾向にあるため、発行部数の目標件数は達成できませんでした。会員からのアンケート結果をサービスに反映させ、既存会員の利用頻度の増加や新規会員の獲得により、会員数の増加へつなげます。</p> <p>今後も、一般財団法人町田市勤労者福祉サービスセンターの事業を通じて、市内中小企業の勤労者に対し、福利厚生事業の支援を行います。</p>				

# ◇ 5-16 ワーク・ライフ・バランス推進事業 ☆

達成度 ○

取り組みの概要	<p>&lt;目的・狙い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員それぞれの「仕事」と「仕事以外の生活」の調和の促進</li> <li>・従業員の就労環境の整備</li> </ul>				
	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進に積極的に取り組み、市内の企業及び事業所を表彰します。</p>				
	<p>&lt;実施主体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市 (男女平等推進センター)</li> <li>・町田市 (産業政策課)</li> </ul>				
指標	表彰企業数(累計)			策定時 (2012年度)	14社(累計)
				目標 (2018年度)	30社(累計)
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	21社(累計)	22社(累計)	28社(累計)	30社(累計)	31社(累計)
事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	<p>仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の向上に積極的に取り組んでいる市内企業の「KRYNA株式会社」を表彰しました。2018年度の受賞企業は1社でした。</p> <p>授賞理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性社員の積極的な育児休業制度取得の促進</li> <li>・女性が働きやすい職場環境の整備を促進するため、在宅勤務を制度化 等</li> </ul> <p>ワーク・ライフ・バランスについてPRをするため、東京都が実施しているセミナーのチラシを法人会等の関連機関に配布した他、市のホームページに情報掲載しました。</p>				
5年間の総括	<p>表彰企業を市ホームページ等での公表したことに加え、町田商工会議所や社会労務士を通じた事業PRを行いました。その結果、31社を表彰し、目標を達成しました。</p> <p>今後も継続的にPR活動を行い、ワーク・ライフ・バランスの質の向上や実現に向けて取り組みます。</p>				

※ 2014年度以降の表彰企業数は集計数に誤りがあったため、累計数を5ヵ年度分修正しました。

# ◇ 5 - 1 7 従業員支援事業 ☆

達成度 ① ◎  
② △

取り組みの概要	<目的・狙い> ・従業員の就労環境の整備 ・従業員のスキルアップ				
	<内容> 従業員のための相談の場やスキルアップのための各種セミナーを、東京都等と共催で開催します。				
	<実施主体> ・町田市（産業政策課） ・東京都				
指標	①街頭労働相談会相談件数（※） ②セミナー等参加者数			策定時 (2012年度)	①16件 ②217人(3回実施)
				目標 (2018年度)	①20件 ②250人
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①72件 ②253人	①75件 ②199人	①60件 ②120人	①81件 ②235人	①68件 ②194人
事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
2018年度の取り組み	5月に、ぽっぽ町田において、東京都労働相談情報センター八王子事務所と共催で「街頭労働相談」を開催しました。457人が来場し、68件の相談がありました。 また、東京都労働相談情報センター八王子事務所と共催で開催したセミナーは、合計194人（内訳：9月「使用者向けセミナー（Ⅰ）」：98人、11月「多様な働き方セミナー（Ⅰ）」：52人、1月「労働者向けセミナー（Ⅱ）」：44人）が参加しました。				
5年間の総括	街頭労働相談は、広報誌やホームページでの周知と当日の呼びかけ等により、目標の3倍を超える相談を受けました。しかし、セミナー等参加者は、使用者向けセミナーと比べ、労働者向けセミナーへの参加者が少なかった結果、目標を達成することができませんでした。				

※ 資料説明及び相談受付件数

## 6. 「各分野の連携を促進する」

・推進事業 6-1 農・商・工連携促進事業

・推進事業 6-2 産学連携促進事業

# ◇ 6-1 農・商・工連携促進事業 ☆

達成度	① △
	② ○

取り組みの概要	<目的・狙い>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業の6次産業化(※)による農業経営の安定化</li> <li>・ 市内事業者のビジネス機会の拡充</li> <li>・ 市内ものづくり事業者のビジネス機会の拡充</li> </ul>				
	<内容>				
	農業と商業、農業と工業、商業と工業の連携を促進するほか、市内農業の6次産業化による、新たな産業の創出を促進していきます。				
指標	<実施主体>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田商工会議所</li> <li>・ (株)町田新産業創造センター</li> <li>・ 町田市（産業政策課、農業振興課）</li> </ul>				
	<共催>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田市農業協同組合</li> </ul>				
指標	①6次産業化プロジェクトの実施件数(累計)		策定時 (2012年度)	①- ②-	
	②農商・農工連携プロジェクト実施件数(累計)		目標 (2018年度)	①2件(累計) ②6件(累計)	
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①1件(累計) ②1件(累計)	①1件(累計) ②3件(累計)	①1件(累計) ②6件(累計)	①1件(累計) ②9件(累計)	①1件(累計) ②13件(累計)
事業費	190千円	150千円	200千円	150千円	200千円
2018年度の取り組み	6次産業化プロジェクトによって開発された「まちだシルクメロン」を活用し、新たに4商品（「まちだシルクメロンどら焼きパンケーキ」、「絹の滴（ボンボンショコラ）」、「まちだシルクメロンラスク」、「東京シルクメロンゼリー」）が誕生しました。 11月の「キラリ☆まちだ祭」では、「東京シルクメロンゼリー」に加え、2017年度までに市内の農畜産物生産者と事業者等が連携して生み出した8つの商品（「花ゆずのお酒」、「町田ゆずワイン」、「まちだサイダー」、「日本一トマトドレッシング」、「日本一梅ドレッシング」、「日本一ゆずポン酢」、「絹の道まちだ布巻ハム」、「町田産ゆず入ソーセージ」、）について、販売とPRを行いました。 また、さらなる連携の促進に向け、2018年4月に市、町田商工会議所、町田市農業協同組合の3者で「農商工連携検討会議」を立ち上げ、3度会議を行い、農業者と商工業者の連携による新たな商品等の開発手法を研究しました。さらに、2019年2月に開催した「農商工連携交流会」では、農商工連携手法に関する情報提供や、個別の農業者と商工業者の事業紹介等を通じ、新たなマッチングの機会を提供し、計4件の農商・農工連携プロジェクトを実施しました。				
5年間の総括	指標①の6次産業化プロジェクトとして、市内外の事業者、大学・高専等が連携して開発した「町田式水耕栽培槽」を用い、金融機関、産業支援機関、行政等も加わり、地域ブランド「まちだシルクメロン」を生産し、2015年から販売を開始しましたが、目標件数は達成できませんでした。 指標②の農商・農工連携プロジェクトとして、「キラリ☆まちだ祭」内で市内の農畜産物生産者と事業者等が連携して生み出した商品を販売・PRするとともに、2017年度からは「農商工連携交流会」の開催、2018年度はプロジェクト推進を検討する「農商工連携検討会議」を立ち上げたこと等により、目標を大きく上回りました。				

※ 6次産業とは、農業や水産業などの第1次産業が、食品加工(第2次産業)・流通販売(第3次産業)にも業務展開している経営形態を表します。

6次産業化により、今まで第2次・第3次産業の事業者が得ていた加工賃や流通マージンなどの付加価値を、農業者や水産業者自身が得ることによって、農業・水産業を活性化させることを目指します。

## ◇ 6-2 産学連携促進事業

達成度	① △ ② ○
-----	------------

取り組みの概要	<目的・狙い> ・大学等の研究成果の市内産業への活用 ・事業者ニーズの研究活動への活用				
	<取り組み内容> 大学等と市内事業者とのマッチング機会の拡充を進め、連携事業や連携研究の実施、研究成果の事業への活用を促進していきます。				
	<実施主体> ・町田商工会議所 ・(株)町田新産業創造センター ・町田市（産業政策課）				
指標	①産学連携交流会への参加事業者数 ②産学連携プロジェクト実施件数			策定時 (2012年度)	①198事業者 ②5件
				目標 (2018年度)	①250事業者 ②現状水準維持
年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
達成状況	①144事業者 ②6件	①15事業者 ②3件	①13事業者 ②2件	①18事業者 (個人を含む) ②5件	①未実施 ②10件
事業費	3,000千円	3,050千円	3,050千円	3,000千円	3,000千円
2018年度の取り組み	<p>産学連携交流会については製造業者を中心に行ってまいりましたが、具体的な実績が出てこなかったことにより、事業者の参加意欲が低くなり2018年度については開催しませんでした。</p> <p>産学連携プロジェクトとして、都立町田総合高校と都立山崎高校で起業・創業に関する講義を2回、まちふれ親子教室を2回、まちだキッズ発明体験教室を2回、ビジネスアイデアコンテストを1回、インターンシップ受け入れを2回、首都圏南西地域産業活性化フォーラムを1回、計10回開催しました。</p> <p>町田市と町田新産業創造センターが連携して、小学生をターゲットに、普段学校で取り上げられないようなテーマを、ゲームやグループワークを通じて経験してもらう、親子で参加する体験型のセミナー「まちふれ親子教室」では、1回目は32組77名、2回目では38組90名の方に参加していただきました。</p> <p>ユニークなアイデアや技術を持つ学生や起業家等と、地元の企業を結びつけ、新たなビジネス創造を目指す「まちだ未来ビジネスアイデアコンテスト&amp;マーケット2018」では、応募総数22件、最終審査会では一次審査を通過した7名がプレゼンテーションを行いました。</p>				
5年間の総括	<p>計画策定時には製造業を中心とした産学連携交流会を盛んに開催してきましたが、現在は新たな形式での産学連携のニーズ（ビジネスコンテスト等）が強くなってきているため、ビジネスコンテストやセミナー、講義等を事業者や各教育機関と連携して行い、関係を構築してきました。</p> <p>ビジネスコンテストでは、実施後にアイデアを提案した企業と事業展開することを目的としており、実際に結びついた事例もできました。インターンシップについては、継続して行うことができ、その他セミナー等においても、単年度で終了ではなく、継続して実施できました。</p>				

推進事業取り組み結果一覧

推進事業名 (☆新規事業)	指標	策定時 (2012年度)	目標値 (2018年度)	実績値 (2018年度)	達成度
<b>基本施策 1. 活気ある商業空間をつくる</b>					
1-1 商店会イベント支援事業	イベント来場者数	1,539,990人	1,700,000人	1,300,108人	△
1-2 商店街活性化支援事業	活性化事業実施件数	1件	4件	2件	△
1-3 商業力強化支援事業☆	①調査の実施回数(累計) ②商科大学(付加価値経営大学)等のセミナー等の参加者数	①ー ②ー	①2回(累計) ②20人	①7回(累計) ②未実施	①◎ ②ー
1-4 環境にやさしい商店街支援事業	商店街街路灯等LED照明導入商店会数(累計)	5商店会(累計)	10商店会(累計)	10商店会(累計)	○
1-5 町田市名産品推奨事業	①町田市名産品の販売拠点数 ②町田市名産品の商品数 ③町田市名産品シールの販売枚数	①3箇所 ②40品 ③147,000枚	①4箇所 ②45品 ③200,000枚	①3箇所 ②62品 ③260,000枚	①△ ②◎ ③◎
1-6 町田私の好きなお店大賞事業	お店大賞受賞店舗数(累計)	60件(累計)	100件(累計)	87件(累計)	△
1-7 町田コレクション事業☆	①コレクション事業の実施回数(累計) ②商品アイテム数(累計)	①ー ②ー	①5回(累計) ②100アイテム(累計)	①5回(累計) ②12アイテム(累計)	①○ ②△
1-8 中心市街地通行量調査活用事業	①中心市街地通行量調査の実施回数 ②来街者アンケート調査の実施回数(累計) ③報告会の参加事業者数	①1回 ②ー ③30人	①1回 ②2回(累計) ③50人	①1回 ②2回(累計) ③19人	①○ ②○ ③△
1-9 中心市街地回遊性向上事業☆	中心市街地通行量(中学生以上の歩行者及び自転車の通過数)	632千人	657千人	619千人	○
<b>基本施策 2. ものづくり産業を活性化する</b>					
2-1 産業見本市出展支援事業	産業見本市出展事業者数	5社	12社	19社	◎
2-2 特許・実用新案取得支援事業	特許・実用新案取得支援件数	9件/年	9件/年	13件/年	◎
2-3 産業交流展出展支援事業☆	産業交流展出展事業所数	4社	4社	4社	○
2-4 トライアル発注認定事業☆	トライアル発注認定商品数(累計)	ー	35(累計)	33(累計)	○
<b>基本施策 3. 農を支える環境をつくる</b>					
3-1 農の担い手育成支援事業	①町田市農業研修修了生数(累計) ②修了生のうちあっせんを受けて就農した人数(累計)	①23人(累計) ②2人(累計)	①80人(累計) ②20人(累計)	①85人(累計) ②11人(累計)	①○ ②△
3-2 農業経営支援事業	市内認定農業者数	90人	現状水準維持	89人	○
3-3 環境にやさしい農業支援事業	①東京都工コ農産物認証制度参加農家戸数(累計) ②市内生産堆肥の流通量	①ー ②305.75 t	①50戸(累計) ②現状水準維持	①44戸(累計) ②175.45 t	①△ ②△
3-4 経営環境整備支援事業	事業実施件数	9件	現状水準維持	8件	△
3-5 畜産事業者経営支援事業	市内畜産事業農家数	11戸	現状水準維持	7戸	△
3-6 農地利用集積円滑化事業☆	農地あっせん成立件数(累計)	25件(累計)	40件(累計)	95件(累計)	◎
3-7 農を活かしたまちづくり推進事業	①ファーマーズセンター来館者数 ②農具館来館者数	①13,108人 ②29,743人	①14,000人 ②31,000人	①8,273人 ②23,159人	①△ ②△
3-8 地場農畜産物直接販売推進事業	「市役所まち☆ベジ市」来場者数	800人	1,000人	1,434人	◎
3-9 地場農畜産物学校給食利用促進事業	①地場農畜産物利用校数 ②学校給食食材出荷量	①42校 ②25.29 t	①現状水準維持 ②50 t	①42校 ②41 t	①○ ②△
3-10 町田産農畜産物のブランド化推進事業☆	まち☆ベジ取扱店舗数	14店舗(累計)	30店舗(累計)	31店舗(累計)	○
3-11 市民と農のふれあい推進事業☆	①市民農園の利用率 ②市民農園・体験農園の箇所数	①100% ②17箇所	①100% ②20箇所	①99% ②16箇所	①○ ②△
3-12 農業祭	①農業祭来場者数 ②品評会出品数	①12,000人(町田 シバヒロ会場のみ) ②520点	①15,000人(町田 シバヒロ会場のみ) ②650点	①16,020人(町田 シバヒロ会場のみ) ②596点	①○ ②○

推進事業名 (☆新規事業)	指標	策定時 (2012年度)	目標値 (2018年度)	実績値 (2018年度)	達成度
<b>基本施策 4. まちの魅力を高め、発信する</b>					
4-1 町田さくらまつり☆	町田さくらまつり来場者数	0人(中止のため) ※2011年度は 106,000人	120,000人	117,000人	○
4-2 キラリ☆まちだ祭	①キラリ☆まちだ祭来場者数 ②出展者の販売促進効果実績件数(出展事業者からのアンケートによる)	①95,000人 ②20件	①150,000人 ②20件	①130,450人 ②26件	①△ ②△
4-3 観光拠点づくり事業	小野路宿里山交流館来館者数	—	6,000人	32,143人	◎
4-4 フットバス振興事業	①フットバスHP年間アクセス数 ②道標整備ルート数(累計)	①3,800アクセス ③3ルート(累計)	①5,000アクセス ②10ルート(累計)	①20,367アクセス ③3ルート(累計)	①◎ ②△
4-5 観光人材育成事業	ボランティアガイド派遣数	61回	70回	85回	◎
4-6 観光まちづくり協働事業	観光事業への参加団体・事業者数	10者(団体)	15者(団体)	19者(団体)	◎
4-7 シティセールス事業☆	町田市観光関連HPアクセス数	1,200,000 アクセス	1,500,000 アクセス	1,227,027 アクセス	△
4-8 コンベンション誘致事業	①コンベンションの新規誘致数(累計) ②主催者の支援事業実施数	①0件(累計) ②3件	①3件(累計) ②5件	①0件(累計) ②1件	①△ ②△
<b>基本施策 5. 事業者が活発に活動できる環境をつくる</b>					
5-1 起業・創業支援事業	①町田新産業創造センター2階入居率 ②セミナー開催数 ③町田新産業創造センター入居者から株式上場企業の創出(累計)	①— ②2回 ③—	①85% ②2回 ③1社(累計)	①100% ②9回 ③0社(累計)	①◎ ②◎ ③△
5-2 企業誘致事業	①オフィス誘致件数(累計) ②工場誘致件数(累計)	①— ②—	①15件(累計) ②1件(累計)	①3件(累計) ②1件(累計)	①△ ②○
5-3 経営安定支援事業	①町田商工会議所企業支援部における相談・指導件数 ②町田新産業創造センターにおける相談・指導件数 ③セミナーの参加者数	①3221件 ②— ③824人	①現状水準維持 ②500件 ③現状水準維持	①3,076件 ②398件 ③832人	①○ ②△ ③○
5-4 中小企業支援ネットワーク事業☆	専門家派遣件数	20件	100件	224件	◎
5-5 リスクマネジメント推進事業	①セミナーの開催数(累計) ②eラーニング講座の受講者数(累計)	①0件(累計) ②0人(累計)	①5件(累計) ②50人(累計)	①未実施 ②未実施	①— ②—
5-6 中小企業融資事業	融資申込件数	533件	現状水準維持	538件	○
5-7 小規模事業者経営改善資金融資事業	融資推薦件数	112件	現状水準維持	100件	△
5-8 商工業者後継者支援事業	後継者育成セミナーへの参加者数	133人	現状水準維持	118人	△
5-9 技能功労者・永年勤続従業員表彰事業	①技能功労者表彰者数 ②永年勤続従業員表彰者数	①16人 ②81人	①20人 ②100人	①21人 ②70人	①○ ②△
5-10 地元企業就職促進事業	①就職フェア来場者数 ②就職フェアでの相談件数 ③就職フェア出展企業数 ④就職フェアを通じた就職件数	①103人 ②105件 ③18社 ④13件	①～④現状水準維持	未実施	①— ②— ③— ④—
5-11 若年者雇用促進事業☆	奨励金交付件数	—	50件	未実施	—
5-12 キャリア形成支援事業	①ジョブ・カード推進協力企業数 ②ジョブ・カードの発行件数	①46社 ②8件	①現状水準維持 ②現状水準維持	①30社 ②25件	①△ ②◎
5-13 経営者・従業員スキルアップ支援事業☆	セミナー参加者数	40人	現状水準維持	17人	△
5-14 中小企業退職金共済支援事業	退職金共済掛金補助事業所数 ①中小企業退職金共済掛金 ②建設業退職金共済掛金 ③特定退職金共済掛金	①136事業所 ②1事業所 ③18事業所	①～③現状水準維持	—	①— ②— ③—
5-15 従業員福利厚生事業	会報誌「さるびあタウン」発行部数	30,800部	42,800部	37,950部	△
5-16 ワーク・ライフ・バランス推進事業☆	表彰企業数(累計)	14社(累計)	30社(累計)	31社(累計)	○
5-17 従業員支援事業☆	①街頭労働相談会相談件数 ②セミナー等参加者数	①16件 ②217人	①20件 ②250人	①68件 ②194人	①◎ ②△
<b>基本施策6 各分野の連携を促進する</b>					
6-1 農・商・工連携促進事業☆	①6次産業化プロジェクトの実施件数(累計) ②農商・農工連携プロジェクト実施件数(累計)	①— ②—	①2件(累計) ②6件(累計)	①1件(累計) ②13件(累計)	①△ ②◎
6-2 産学連携促進事業	①産学連携交流会への参加事業者数 ②産学連携プロジェクト実施件数	①198事業者 ②5件	①250事業者 ②現状水準維持	①未実施 ②10件	①△ ②◎

---

町田市新・産業振興計画  
(2014年度～2018年度)  
取り組み結果報告書

2019年8月発行

---

発行者	町田市 〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22
編集	経済観光部産業政策課
印刷	庁内印刷
刊行物番号	19-25

---